

「SDGs 推進 TGC しずおか 2023 by  
TOKYO GIRLS COLLECTION」  
における経済波及効果分析

報 告 書

令和5年3月

静岡県地域経済分析研究学会



## 目次

1. SDGs 推進 TGC しずおか 2023 by TOKYO GIRLS COLLECTION の開催概要	1
2. 来場者アンケート結果	2
(1) アンケート実施要領	2
(2) 回答者の属性、行動 (Q1)	3
① 性別・年齢	3
② 同行人数・同行者	4
③ 居住地	5
④ 来場に利用した主な交通手段 (複数回答)	6
⑤ イベントに伴う宿泊 (複数回答)	7
(3) SDGs 推進 TGC しずおか 2023 について (Q2)	8
①-1 イベントの来場のきっかけとなった情報源 (男女別)	8
①-2 イベントの来場のきっかけとなった情報源 (年齢別)	9
①-3 イベントの来場のきっかけとなった情報源 (居住地別)	10
② このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて	11
③ このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか？ (複数回答)	12
④ 静岡市外の方にお尋ねします。このイベント以降、観光やレジャー、 グルメ、イベント参加の目的で静岡市を訪れたいと思いますか？ (複数回答)	13
⑤ 今回の会場の場所について、どう思いますか？	14
⑥-1 あなたはSDGsを知っていますか？ (年齢別)	15
⑥-2 あなたはSDGsを知っていますか？ (居住地別)	16
⑦ 前回のTGC しずおか 2020 に来場されましたか？ (居住地別)	17
(4) SDGs 推進 TGC しずおか 2023 に関連して支出した金額などについてお答えください。(Q3)	
① 会場への交通手段と交通費	18
② 自宅から会場までの所要時間 (※静岡県内は静岡市を除く市町)	20
③ TGC しずおか2023 に関連して支出した金額	21
3. 地域経済波及効果の分析	22
(1) 経済波及効果の分析方法	22
(2) 経済波及効果の起点となる最終需要	23
① 最終需要1-来場者の支出 (交通費以外)	24
② 最終需要2-来場者の支出 (交通費)	27
③ 最終需要3-主催者の運営支出	29
④ 最終需要のまとめ	29
(3) 経済波及効果の分析結果の概要	30
① 企業・産業への経済波及効果 (生産誘発効果)	30
② 家計への雇用効果	30
③ 行政への税収効果	33
④ 地域社会への定住人口効果	34

## 凡例

本報告書の図表について、合計の数字と内訳を足した数字は同じであるが、小数の四捨五入の端数処理の関係で、合計の数字と内訳を足した数字が一致しない場合がある。

## 1. SDGs 推進 TGC しずおか 2023 by TOKYO GIRLS COLLECTION の開催概要

今回、全国にSDGsを発信し最先端の取り組みとなるべく、史上最大級のファッションフェスタ「東京ガールズコレクション」の「地方創生プロジェクト」と「SDGsの推進」を掛け合わせた「SDGs 推進TGC しずおか 2023 by TOKYO GIRLS COLLECTION」（以下、TGC しずおか 2023）を開催した。

表1 TGCしずおか2023の開催概要

主催	東京ガールズコレクション実行委員会
共催	静岡県、静岡市
日時	2023年1月14日（土） 開場13:00/開演15:00/終演19:45
会場	ツインメッセ静岡北館大展示場（静岡県静岡市駿河区曲金3丁目1番10号）
入場方法	チケット購入 全席指定席 先行価格：8,500円、一般価格：9,000円 ※金額はすべて税込
来場者数	延べ約7,130人

## 2. 来場者アンケート結果

### (1) アンケート実施要領

TGCしずおか2023の開催時に実施した来場者アンケートの実施概要は以下のとおりである。

表2 来場者アンケートの実施概要

調査体制	調査主体：静岡市、東京ガールズコレクション実行委員会 調査協力：静岡県地域経済分析研究学会
実施日時	2023年1月14日（土）11:00～15:00
実施場所	ツインメッセ静岡北館大展示場
調査対象	本イベントの一般来場者
調査方法	調査員が回答依頼を口頭で行い、承諾を得た場合は調査票を交付。記入後、調査員が回収を行った。
回収状況	回収数601

## (2) 回答者の属性、行動 (Q1)

### ① 性別・年齢 ※ ( ) 内は前回3年前の2020年の結果である

回答者の性別をみると、女性が90.2% (95.2%) と大半を占めているが、前回に比べて男性が9.3% (4.8%) と約1割に増加している (図1)。

年齢については、20代が42.8% (65.8%) で最も多く、次いで10代が33.4% (29.9%) で両者を合わせると20代以下で76.2%と7割以上を占めている。

前は20代と10代をあわせて95.7%であったことに比べて、今回は30代以上が23.5% (4.4%)、約4人に1人になるなど、参加年齢層が30代・40代などにも広がっている (図2)。30代は6.7% (2.3%)、40代9.8% (0.7%)、50代5.3% (1.2%)、60代以上1.7% (0.2%) となっている (図2)。

図1 回答者の性別 (n=601)

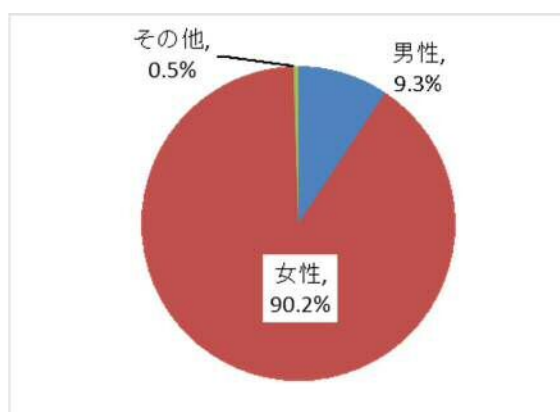


図2 回答者の年齢 (n=601)

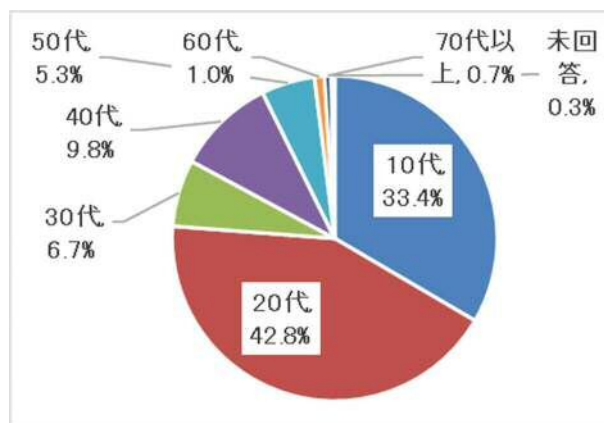


表3 性別・年齢別回答数 (n=601)

性別 年齢別	回答数(人)				年齢構成比			
	男性	女性	その他	合計	男性	女性	その他	合計
10代	15	184	2	201	26.8%	33.9%	66.7%	33.4%
20代	24	232	1	257	42.9%	42.8%	33.3%	42.8%
30代	4	36	0	40	7.1%	6.6%	0.0%	6.7%
40代	9	50	0	59	16.1%	9.2%	0.0%	9.8%
50代	3	29	0	32	5.4%	5.4%	0.0%	5.3%
60代	1	5	0	6	1.8%	0.9%	0.0%	1.0%
70代以上	0	4	0	4	0.0%	0.7%	0.0%	0.7%
未回答	0	2	0	2	0.0%	0.4%	0.0%	0.3%
合計	56	542	3	601	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男女構成比 (%)	9.3%	90.2%	0.5%	100.0%				

(注) 性別回答欄の「その他」は調査票では「未回答」と表記していたが、実際の未回答と区別し、LGBTの回答者もあることから、この報告書では表記を「その他」とした。

## ② 同行人数・同行者

一緒に来た人数を尋ねたところ、「2人」との回答が64.2%と6割以上を占めている（前回も64.0%）。次いで「1人」が17.6%、「3人」が10.3%、「4人」が2.8%、「5人以上」が5.0%となっている（図3）。

同行者については、「友人」が49.6%（81.2%）と最も多く、次いで「家族」が26.6%（11.0%）となっている（図4）。友人の割合が大きく減少した一方で、家族や仕事仲間など来場者層は多様化している特徴をみてとれる（図4）。

図3 同行人数（n=601）

図4 同行者（n=601）

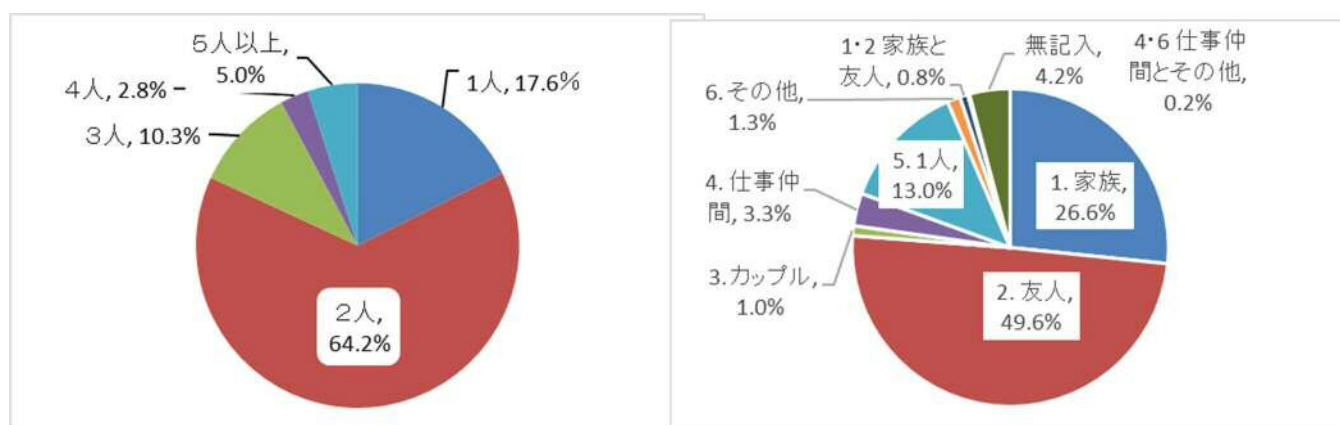


表4 同行人数・同行者（n=601）

回答者数(人)	1人	2人	3人	4人	5人以上	合計
1. 家族	1	127	23	4	5	160
2. 友人	2	243	33	7	13	298
3. カップル	1	5	0	0	0	6
4. 仕事仲間	0	8	4	2	6	20
5. 1人	77	1	0	0	0	78
6. その他	1	1	0	1	5	8
1・2 家族と友人	0	0	2	3	0	5
4・6 仕事仲間とその他	1	0	0	0	0	1
無回答	23	1	0	0	1	25
合計	106	386	62	17	30	601

構成比	1人	2人	3人	4人	5人以上	横合計	縦合計
1. 家族	0.6%	79.4%	14.4%	2.5%	3.1%	100.0%	26.6%
2. 友人	0.7%	81.5%	11.1%	2.3%	4.4%	100.0%	49.6%
3. カップル	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1.0%
4. 仕事仲間	0.0%	40.0%	20.0%	10.0%	30.0%	100.0%	3.3%
5. 1人	98.7%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	13.0%
6. その他	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%	62.5%	100.0%	1.3%
1・2 家族と友人	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%	0.8%
4・6 仕事仲間とその他	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.2%
無回答	92.0%	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%	100.0%	4.2%
合計	17.6%	64.2%	10.3%	2.8%	5.0%	100.0%	100.0%



### ③ 居住地

静岡市内が29.1% (34.4%)、静岡市以外の静岡県内が35.4%(40.7%)、静岡県外からは35.4% (24.6%)であった。

今回は、静岡市内と静岡市以外の静岡県内の居住者の割合が減少しているのに対して静岡県外からの来場者の割合が増え、参加者の「居住地の広域化」がみられる(図5)。

図5 参加者の居住地 (n=601)

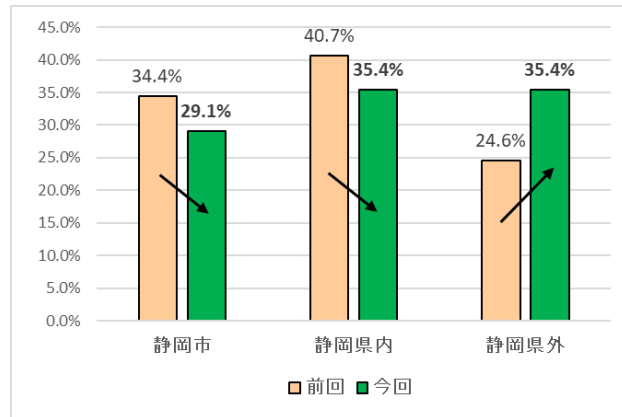


表5 参加者の居住地 (n=601)

居住地	回答数 (人)	構成比	前回構成比
<b>静岡市</b>	<b>175</b>	<b>29.1%</b>	<b>34.4%</b>
葵区	65	10.8%	12.0%
駿河区	54	9.0%	11.3%
清水区	52	8.7%	10.2%
区不詳	4	0.7%	0.8%
<b>静岡県内※</b>	<b>213</b>	<b>35.4%</b>	<b>40.7%</b>
熱海市	2	0.3%	0.3%
伊東市	2	0.3%	0.2%
伊豆の国市	6	1.0%	0.2%
河津町	-	-	0.2%
南伊豆町	2	0.3%	0.2%
沼津市	7	1.2%	1.5%
三島市	9	1.5%	0.8%
富士宮市	10	1.7%	2.3%
富士市	19	3.2%	4.7%
御殿場市	1	0.2%	0.3%
裾野市	1	0.2%	0.5%
函南町	3	0.5%	0.2%
清水町	2	0.3%	1.0%
長泉町	2	0.3%	0.3%
島田市	17	2.8%	2.7%
焼津市	19	3.2%	5.5%
藤枝市	13	2.2%	4.7%
牧之原市	6	1.0%	0.8%
吉田町	5	0.8%	0.8%
川根本町	2	0.3%	1.7%
浜松市	50	8.3%	6.8%
磐田市	5	0.8%	1.3%
掛川市	12	2.0%	1.5%
袋井市	4	0.7%	0.8%
湖西市	5	0.8%	0.3%
御前崎市	-	-	0.2%
菊川市	4	0.7%	0.2%
森町	1	0.2%	0.8%
市町不詳	4	0.7%	0.3%

居住地	回答数 (人)	構成比	前回構成比
<b>静岡県外</b>	<b>213</b>	<b>35.4%</b>	<b>24.6%</b>
北海道	-	-	0.2%
宮城県	1	0.2%	0.2%
福島県	1	0.2%	-
茨城県	3	0.5%	0.3%
栃木県	2	0.3%	0.2%
群馬県	-	-	0.7%
埼玉県	12	2.0%	0.5%
千葉県	13	2.2%	0.7%
東京都	43	7.2%	4.8%
神奈川県	30	5.0%	3.8%
新潟県	1	0.2%	-
山梨県	6	1.0%	0.2%
長野県	1	0.2%	0.3%
石川県	1	0.2%	-
福井県	1	0.2%	-
岐阜県	2	0.3%	2.3%
愛知県	34	5.7%	6.1%
三重県	11	1.8%	1.0%
滋賀県	9	1.5%	-
和歌山県	2	0.3%	-
京都府	4	0.7%	0.5%
大阪府	18	3.0%	0.8%
兵庫県	6	1.0%	0.8%
岡山県	-	-	0.7%
広島県	1	0.2%	0.2%
香川県	-	-	0.2%
徳島県	-	-	0.2%
長崎県	4	0.7%	-
大分県	1	0.2%	-
県名不明	6	1.0%	0.3%
<b>合計</b>	<b>601</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>

静岡県内※ は静岡市を除く静岡県内である。

(注)「構成比」及び「前回構成比」の%は小数第2位を四捨五入をした値を記載しているため、静岡市、静岡県内、静岡県外のそれぞれの構成比は、内訳を合計した値と必ずしも一致しない

#### ④ 来場に利用した主な交通手段（複数回答）

来場者の居住地の広域化（③居住地を参照）の影響で、交通手段にも変化があった。

前回多かった交通手段は、JR（37.9%）、自家用車（37.9%）、バス（17.9%）の順であり、この3つで93.7%を占めていたが、今回は、自家用車の42.8%と新幹線の25.5%が増加した一方で、会場の静岡市への近隣市町からのJR利用者が37.9%から21.5%に減少した。静岡県外の来場者の62.4%が新幹線を利用している。長崎県や大分県から飛行機を利用して来場した人も3人いる。

図6 主な交通手段（複数回答：回答者総数601人に対する回答数の比率）

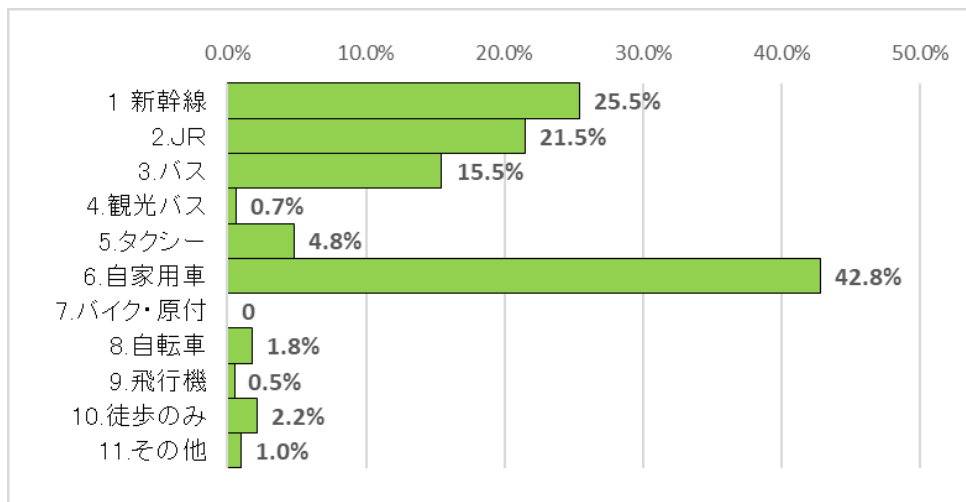


表6 主な交通手段（複数回答：回答者総数601人に対する回答数の比率）

居住地 交通手段	回答数				対回答者数比				(参考) 前回 2020年
	静岡市	静岡市以外 の静岡県内	静岡県 外	回答数 合計	静岡市	静岡市以外 の静岡県内	静岡県 外	合計	
1. 新幹線	3	17	133	153	1.7%	8.0%	62.4%	25.5%	15.3%
2. JR	17	86	26	129	9.7%	40.4%	12.2%	21.5%	37.9%
3. バス	26	22	45	93	14.9%	10.3%	21.1%	15.5%	17.9%
4. 観光バス	1	2	1	4	0.6%	0.9%	0.5%	0.7%	-
5. タクシー	3	10	16	29	1.7%	4.7%	7.5%	4.8%	5.0%
6. 自家用車	105	110	42	257	60.0%	51.6%	19.7%	42.8%	37.9%
7. バイク・原付	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8. 自転車	10	1	-	11	5.7%	0.5%	-	1.8%	6.5%
9. 飛行機	-	-	3	3	-	-	1.4%	0.5%	0.2%
10. 徒歩のみ	12	1	-	13	6.9%	0.5%	-	2.2%	2.5%
11. その他	4	-	2	6	2.3%	-	0.9%	1.0%	1.5%
無回答	1	-	-	1	0.6%	-	-	0.2%	-
回答数	182	249	268	699	104.0%	116.9%	125.8%	116.3%	124.6%
回答者数	175	213	213	601	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## ⑤ イベントに伴う宿泊（複数回答）

イベントに伴う宿泊については前回の 7.6%から 10.8%に増加した（図 7）。来場者の居住地の広域化の影響によるものと考えられる。静岡県外からの来場者に限れば宿泊者は 26.8%（前回 25.0%）で、そのうち静岡市内の宿泊者は 21.6%（18.9%）であった。静岡市以外の静岡県内への宿泊者は減って 0.9%（6.1%）であった（表 7）。

図 7 イベントに伴う宿泊（全体）

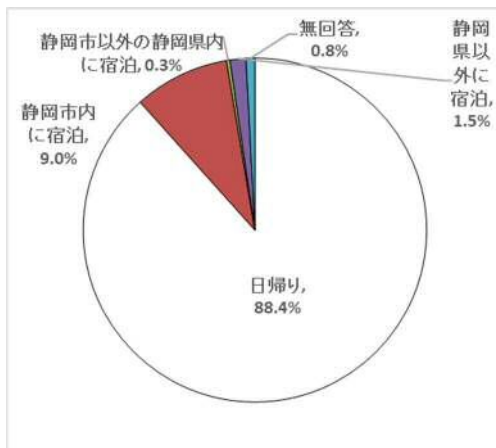


図 8 イベントに伴う宿泊（県外居住者）

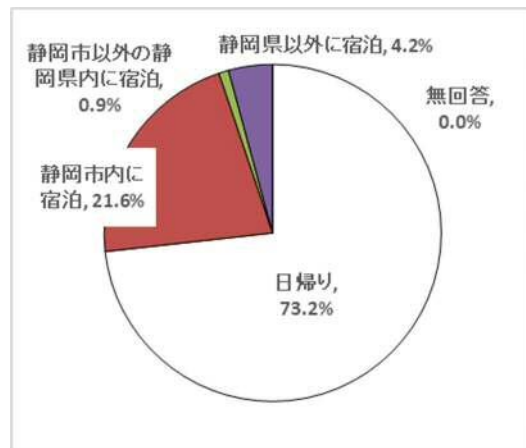


表 7 イベントに伴う宿泊、宿泊地、宿泊数

居住地	宿泊	宿泊			小計	無回答	合計	
		日帰り	静岡市内に宿泊	静岡市以外の静岡県内に宿泊				静岡県以外に宿泊
静岡市		170	1	-	-	1	4	175
静岡市以外の静岡県		205	7	-	-	7	1	213
静岡県外		156	46	2	9	57	-	213
合計		531	54	2	9	65	5	601
構成比(全体)		<b>88.4%</b>	9.0%	0.3%	1.5%	<b>10.8%</b>	0.8%	100.0%
前回2020年構成比		91.4%	6.1%	1.5%	0.0%	7.6%	1.0%	100.0%
構成比(静岡県外居住者)		<b>73.2%</b>	21.6%	0.9%	4.2%	<b>26.8%</b>	-	100.0%
前回2020年構成比		74.3%	18.9%	6.1%	-	25.0%	0.7%	100.0%

宿泊数	静岡市内に宿泊	静岡市以外の静岡県内に宿泊	静岡県以外に宿泊	合計	宿泊数構成比
1泊	39	-	9	48	73.8%
2泊	4	2	-	6	9.2%
3泊	-	-	-	-	-
不明	11	-	-	11	16.9%
合計	54	2	9	65	100.0%
宿泊地構成比		83.1%	3.1%	13.8%	100.0%
(前回)		80.4%	19.6%	-	100.0%

### (3) SDGs 推進 TGC しずおか 2023 について (Q2)

#### ① -1 イベントの来場のきっかけとなった情報源 (男女別)

情報源では、家族や知人、職場の情報が1位を占め33.3%だったほか、ツイッター26.1%、インスタグラム22.8%、公式ホームページ25.1%とネットを通じた情報源も多い。ポスター、リーフレット、テレビCM、新聞広告、イベント等による告知活動などの既存の情報源としては、それぞれ5%前後の比重となっている。

図9 イベントの来場のきっかけとなった情報源 (性別) ※その他は略

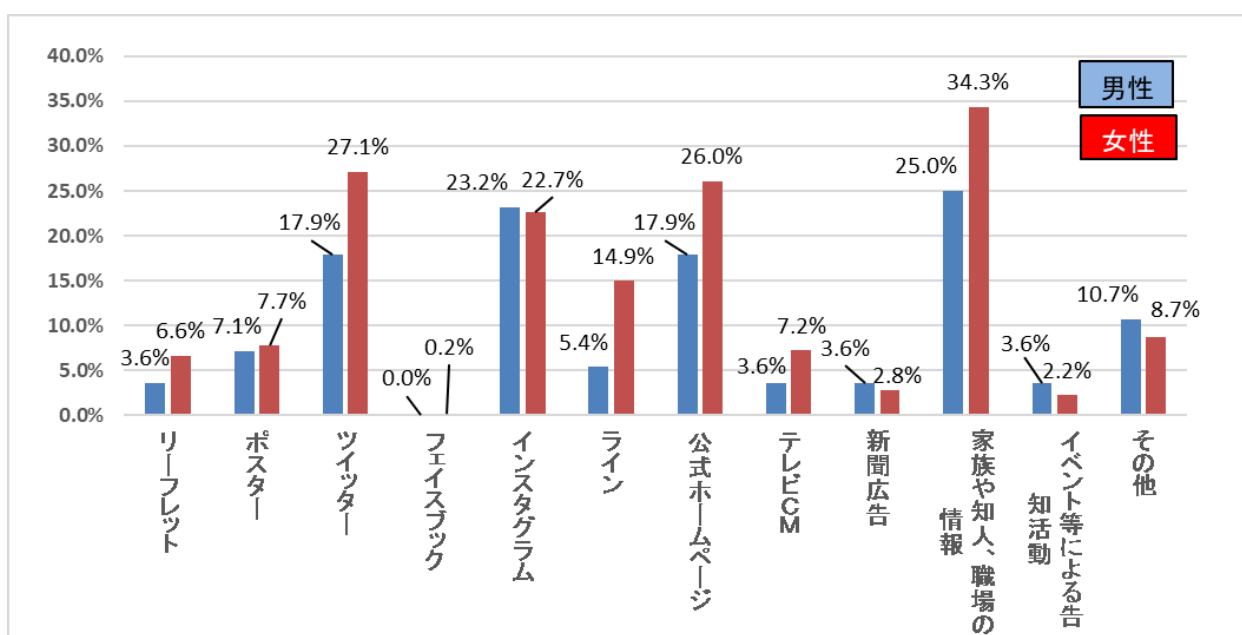


表8 来場のきっかけとなった情報源 (性別)

情報源	性別	回答数				対回答者数比 (参考)				
		男性	女性	その他	合計	男性	女性	その他	合計	前回
リーフレット		2	36	0	38	3.6%	6.6%	0.0%	6.3%	6.5%
ポスター		4	42	0	46	7.1%	7.7%	0.0%	7.7%	7.3%
ツイッター		10	147	0	157	17.9%	27.1%	0.0%	26.1%	26.7%
フェイスブック		0	1	0	1	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.2%
インスタグラム		13	123	1	137	23.2%	22.7%	33.3%	22.8%	20.6%
ライン		3	81	0	84	5.4%	14.9%	0.0%	14.0%	14.0%
公式ホームページ		10	141	0	151	17.9%	26.0%	0.0%	25.1%	24.6%
テレビCM		2	39	0	41	3.6%	7.2%	0.0%	6.8%	6.8%
新聞広告		2	15	0	17	3.6%	2.8%	0.0%	2.8%	2.7%
家族や知人、職場の情報		14	186	0	200	25.0%	34.3%	0.0%	33.3%	31.7%
イベント等による告知活動		2	12	0	14	3.6%	2.2%	0.0%	2.3%	2.5%
その他		6	47	2	55	10.7%	8.7%	66.7%	9.2%	8.3%
性別合計		68	870	3	941	121.4%	160.5%	100.0%	156.6%	151.8%
回答者数		56	542	3	601	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## ① -2 イベントの来場のきっかけとなった情報源（年齢別）

情報源を年齢別にみると、10代のインスタグラム38.8%、ツイッター22.4%の順である。20代はツイッター35.8%、インスタグラム26.8%など、若い世代のSNSを通じた情報源が多い。

30代以上は家族や知人、職場の情報34.8%が高い割合を占めているが、ツイッター24.8%、インスタグラム16.3%などSNSの情報源も少なくない。

図 10 来場のきっかけとなった情報源（年齢別）

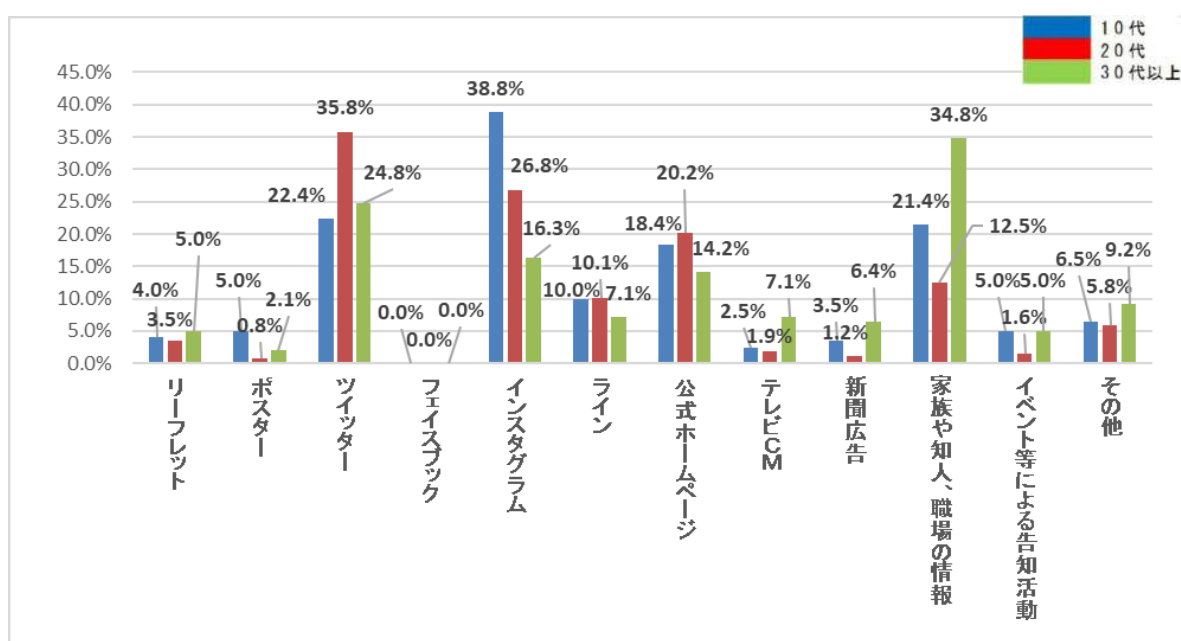


表 9 来場のきっかけとなった情報源（年齢別）

情報源	回答数				対回答者数比			
	10代	20代	30代以上	合計	10代	20代	30代以上	合計
リーフレット	8	9	7	24	4.0%	3.5%	5.0%	4.0%
ポスター	10	2	3	15	5.0%	0.8%	2.1%	2.5%
ツイッター	45	92	35	172	22.4%	35.8%	24.8%	28.6%
フェイスブック	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
インスタグラム	78	69	23	170	38.8%	26.8%	16.3%	28.3%
ライン	20	26	10	56	10.0%	10.1%	7.1%	9.3%
公式ホームページ	37	52	20	109	18.4%	20.2%	14.2%	18.1%
テレビCM	5	5	10	20	2.5%	1.9%	7.1%	3.3%
新聞広告	7	3	9	19	3.5%	1.2%	6.4%	3.2%
家族や知人、職場の情報	43	32	49	124	21.4%	12.5%	34.8%	20.6%
イベント等による告知活動	10	4	7	21	5.0%	1.6%	5.0%	3.5%
その他	13	15	13	41	6.5%	5.8%	9.2%	6.8%
年齢別合計	276	309	186	771	137.3%	120.2%	131.9%	128.3%
回答者数	201	257	141	601	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 合計には年齢無回答2名の回答2名を含む

### ① -3 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）

来場のきっかけとなった情報源を居住地別にみると、静岡市居住者、静岡県内居住者は家族や知人、職場の情報といった口コミ情報が高いのに対し、静岡県外居住者はツイッター47.9%などSNSの情報源が高くなっている。

表10の前回との比較では、インスタグラムやツイッターなどSNSからの情報が増えている反面で、リーフレット、ポスター、テレビCM、公式ホームページなど従来の情報源は軒並み比重を減らしていることが分かる。

図11 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）

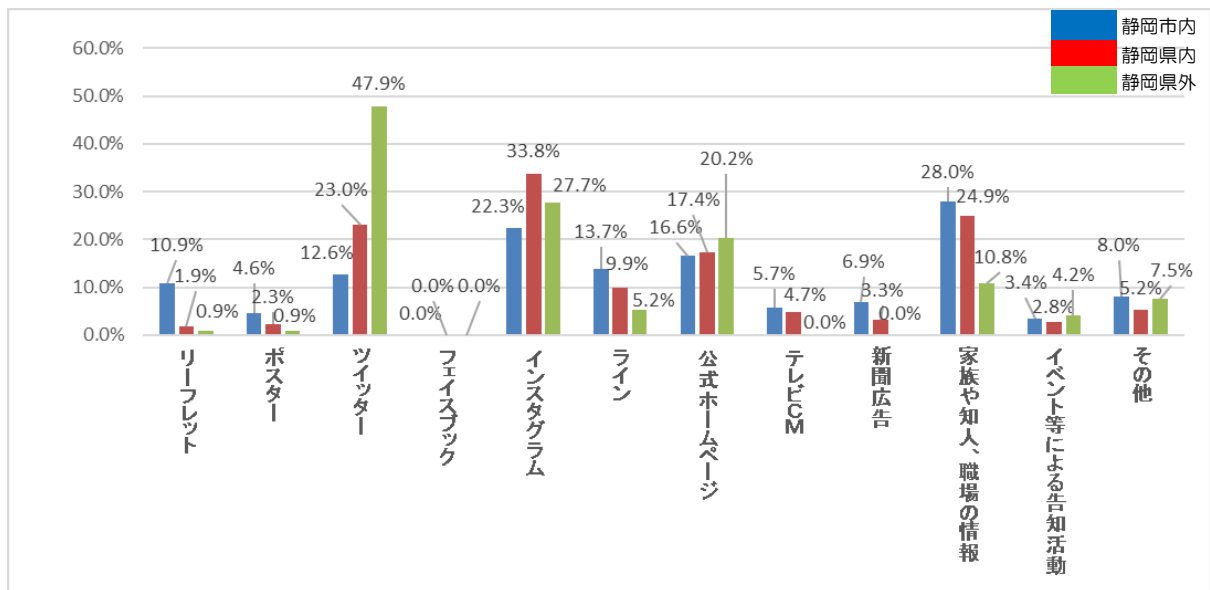


表10 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）

情報源	回答数				対回答者数比				(参考) 前回
	静岡市内	静岡県内	静岡県外	合計	静岡市内	静岡県内	静岡県外	合計	
リーフレット	19	4	2	25	10.9%	1.9%	0.9%	4.2%	6.5%
ポスター	8	5	2	15	4.6%	2.3%	0.9%	2.5%	7.3%
ツイッター	22	49	102	173	12.6%	23.0%	47.9%	28.8%	26.7%
フェイスブック	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
インスタグラム	39	72	59	170	22.3%	33.8%	27.7%	28.3%	20.6%
ライン	24	21	11	56	13.7%	9.9%	5.2%	9.3%	14.0%
公式ホームページ	29	37	43	109	16.6%	17.4%	20.2%	18.1%	24.6%
テレビCM	10	10	0	20	5.7%	4.7%	0.0%	3.3%	6.8%
新聞広告	12	7	0	19	6.9%	3.3%	0.0%	3.2%	2.7%
家族や知人、職場の情報	49	53	23	125	28.0%	24.9%	10.8%	20.8%	31.7%
イベント等による告知活動	6	6	9	21	3.4%	2.8%	4.2%	3.5%	2.5%
その他	14	11	16	41	8.0%	5.2%	7.5%	6.8%	8.3%
回答数合計	232	275	267	774	132.6%	129.1%	125.4%	128.8%	151.8%
回答者数	175	213	213	601	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## ② このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて

イベント開催の感想は、年齢層が低いほど高い評価が得られている。10代、20代の「とても良い」という最高の評価は、それぞれ91.0%、81.3%と8割を超えている。30代以上は77.6%であり、8割近い比率となっている（図12）。

10代と30代の「とても良い」は、それぞれ前回の88.3%、65.4%と比べて大きく上昇している。参加者の好感度は高まっている。

図12 このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて（n=601）

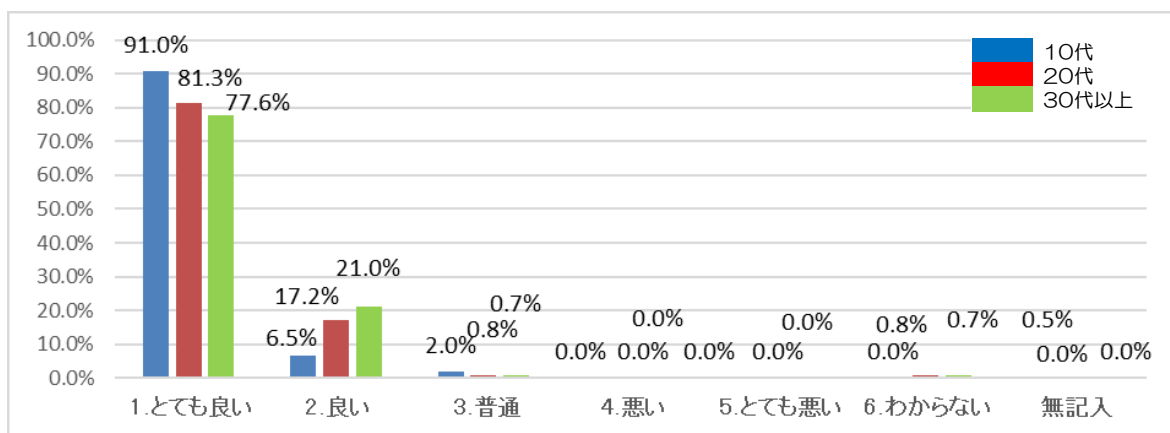


表11 このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて（n=601）

イベントの評価	回答者数															
	男性				女性				その他			性別合計				
	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	小計	10代	20代	30代以上	合計	
1. とても良い	12	14	14	40	169	194	97	460	1	1	2	181	208	111	502	
2. 良い	2	10	3	15	11	34	27	72	1	0	1	13	44	30	88	
3. 普通	1	0	0	1	3	2	1	6	0	0	0	4	2	1	7	
4. 悪い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5. とても悪い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6. わからない	0	0	0	0	0	2	1	3	0	0	0	0	2	1	3	
無記入	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	
合計	15	24	17	56	184	232	126	542	2	1	3	199	256	143	601	

イベントの評価	構成比															
	男性				女性				その他			性別合計				
	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	小計	10代	20代	30代以上	合計	
1. とても良い	80.0%	58.3%	82.4%	71.4%	91.8%	83.6%	77.0%	84.9%	50.0%	100.0%	66.7%	91.0%	81.3%	77.6%	83.5%	
2. 良い	13.3%	41.7%	17.6%	26.8%	6.0%	14.7%	21.4%	13.3%	50.0%	0.0%	33.3%	6.5%	17.2%	21.0%	14.6%	
3. 普通	6.7%	0.0%	0.0%	1.8%	1.6%	0.9%	0.8%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.8%	0.7%	1.2%	
4. 悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
5. とても悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
6. わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.8%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.7%	0.5%	
無記入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.2%	
合計	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

③ このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか？（複数回答）

静岡県以外の居住者では、17.8%（10.6%）が静岡市内で、1.9%（1.3%）が静岡県内で観光やレジャーを行うと回答している。両方を合わせると 19.7%（11.9%）と増えている。

約 7,000 人の参加者のうち、全体で静岡市や静岡県内を観光する人の比率は 11.9% である（表 12：静岡市内 10.6%+静岡県内 1.3%）ことを考えると、7,000 人×観光する人の比率 11.9%=833 人となり、概算で約 800 人を超える観光客を誘発している。

図 13 このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか？（複数回答）

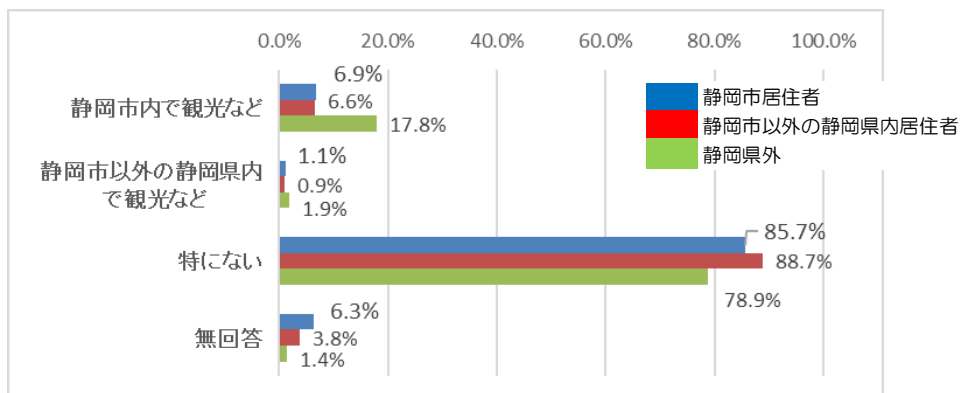


表 12 このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか？（複数回答）

居住地	回答数				構成比				(参考) 合計 2020年
	静岡市	静岡市以外の静岡県	静岡県外	合計	静岡市	静岡市以外の静岡県	静岡県外	合計 2023年	
観光など									
静岡市内で観光など	12	14	38	64	6.9%	6.6%	17.8%	10.6%	5.3%
静岡市以外の静岡県内で観光など	2	2	4	8	1.1%	0.9%	1.9%	1.3%	1.5%
特にない	150	189	168	507	85.7%	88.7%	78.9%	84.4%	87.7%
無回答	11	8	3	22	6.3%	3.8%	1.4%	3.7%	5.5%
合計	175	213	213	601	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(表 12-付表) 観光を行う場所（居住地別）（記述回答欄に記入のあった例）

	静岡市居住者	静岡県内居住者 ※	静岡県外居住者
訪れる観光地	・アピタ ・駿府公園、日本平動物園 ・街中	・グルメめぐり ・エリカス・パルサ ・駅 ・グルメ 静岡駅 ・用宗	・さわやか(12件) ・食事 ・日本平夢テラス ・グルメ ・東照宮 ・久能山

※ 静岡県内居住者は静岡市の居住者を除く



④ 静岡市外の方にお尋ねします。このイベント以降、観光やレジャー、グルメ、イベント参加の目的で静岡市を訪れたいと思いますか？（複数回答）

静岡市以外の静岡県内居住者で、イベント以降、静岡市を訪れたいと回答した人の目的は、「訪れたい」「参加したい」という回答者の比率が前回よりも軒並み大幅に増えている。静岡県外居住者では、「観光やレジャー目的で訪れたい」と回答した人の割合が29.1%から49.8%に大きく増えているが、他の目的は減少している。

図 14 このイベント以降、観光やレジャー、グルメ、イベント参加の目的で静岡市を訪れたいと思いますか？（複数回答）

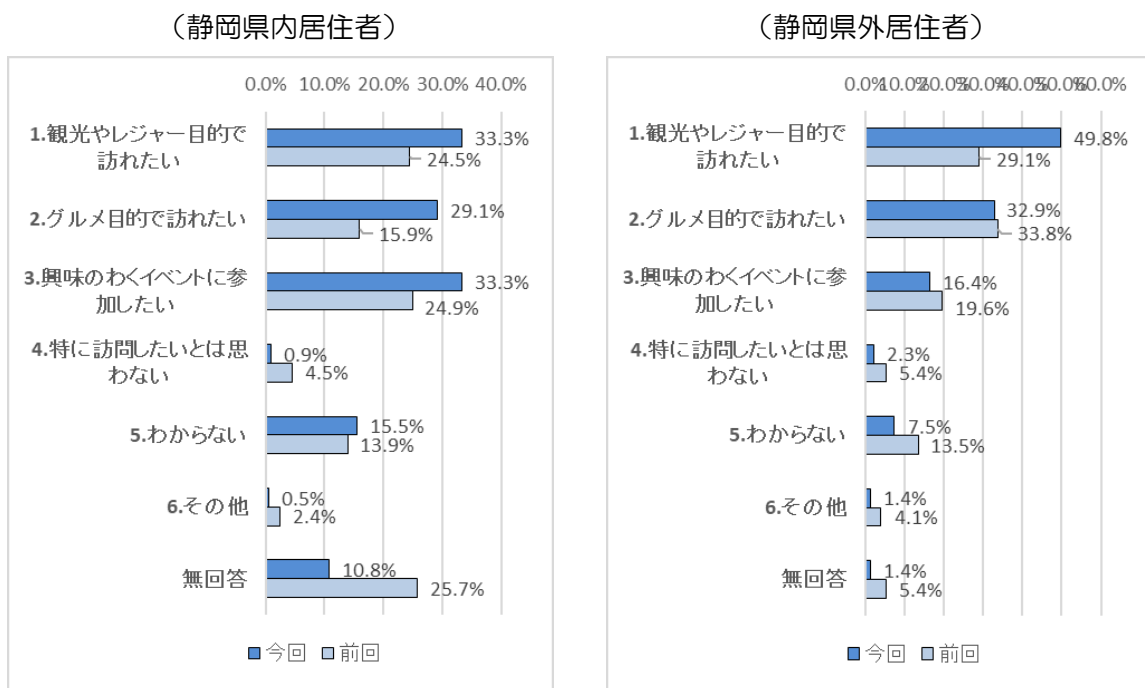


表 13 このイベント以降、観光やレジャー、グルメ、イベント参加の目的で静岡市を訪れたいと思いますか？（複数回答）

静岡市を訪れたいと思うか	居住地			対回答者数比			(参考 同左)		
	静岡県(静岡市以外)	静岡県以外	合計	静岡県(静岡市以外)	静岡県以外	合計	静岡県(静岡市以外)	前回静岡県以外	前回合計2020年
1.観光やレジャー目的で訪れたい	71	106	177	33.3%	49.8%	41.5%	24.5%	29.1%	26.2%
2.グルメ目的で訪れたい	62	70	132	29.1%	32.9%	31.0%	15.9%	33.8%	22.6%
3.興味のわくイベントに参加したい	71	35	106	33.3%	16.4%	24.9%	24.9%	19.6%	22.9%
4.特に訪問したいとは思わない	2	5	7	0.9%	2.3%	1.6%	4.5%	5.4%	4.8%
5.わからない	33	16	49	15.5%	7.5%	11.5%	13.9%	13.5%	13.7%
6.その他	1	3	4	0.5%	1.4%	0.9%	2.4%	4.1%	3.1%
無回答	23	3	26	10.8%	1.4%	6.1%	25.7%	5.4%	18.1%
合計	263	238	501	123.5%	111.7%	117.6%	111.8%	110.8%	111.5%
回答者数	213	213	426	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

### ⑤ 今回の会場の場所について、どう思いますか？

会場の場所についての感想を尋ねた回答は、「便利」が 51.2% (30.6%)、「普通」が 43.3%、(59.8%)、「不便」が 5.3% (9.3%) となり、回答者の半数が「便利」と答えている。

2019年、2020年に続き、今回で3回目の開催となることでリピーターも増え、会場へのアクセスの認知度が高まっていることなどが背景にあることも一因であろう。

居住地別にみても、静岡市内、静岡県内、静岡県外のいずれの居住者も全体で「便利」の回答比率が高まる一方で、普通、不便の割合が減少している(図15)。ただ、遠方から来場した静岡県外居住者については「普通」と回答した人が53.1%であり、「便利」と回答した人の41.8%を上回っている。

図15 今回の会場の場所について、どう思いますか？

同色左 前回2020年  
同色右 今回2023年

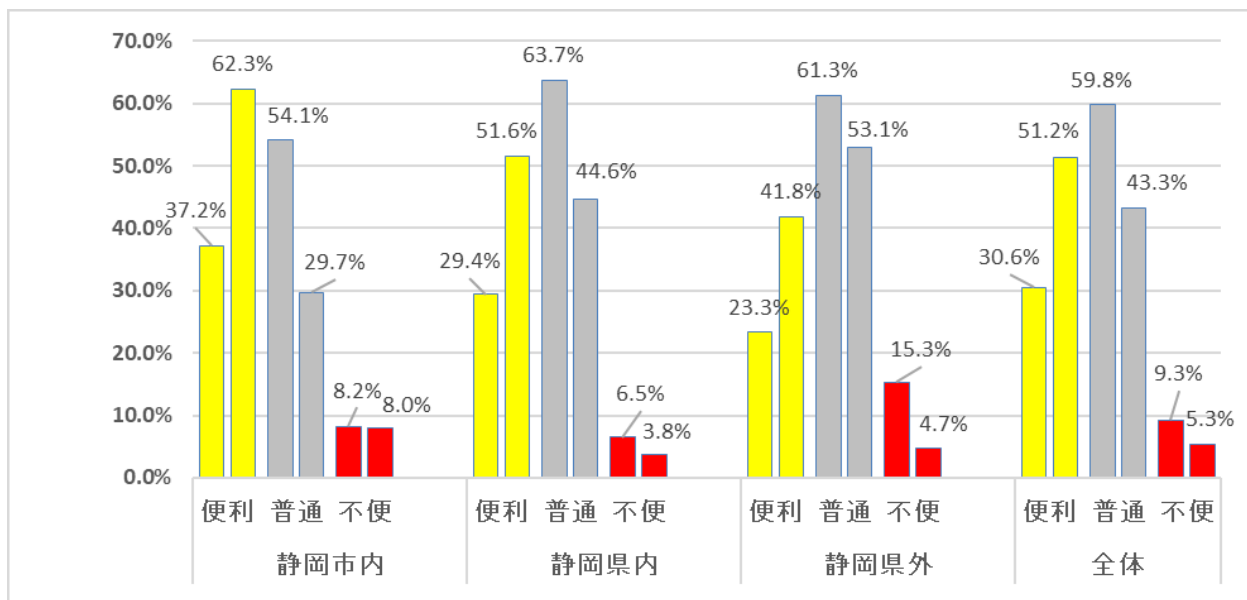


表14 今回の会場の場所について、どう思いますか？

居住地	回答数				構成比			
	1.便利	2.普通	3.不便	合計	1.便利	2.普通	3.不便	合計
静岡市	109	52	14	175	62.3%	29.7%	8.0%	100.0%
葵区	45	17	2	64	70.3%	26.6%	3.1%	100.0%
駿河区	37	17	1	55	67.3%	30.9%	1.8%	100.0%
清水区	23	17	11	51	45.1%	33.3%	21.6%	100.0%
不詳	4	1	0	5	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
静岡県内	110	95	8	213	51.6%	44.6%	3.8%	100.0%
静岡県以外	89	113	10	213	41.8%	53.1%	4.7%	100.0%
合計	308	260	32	601	51.2%	43.3%	5.3%	100.0%
前回 2020年	184	360	56	602	30.6%	59.8%	9.3%	100.0%

(注) 静岡県以外の合計には、無回答1件を含む。前回の合計には無回答2件を含む。構成比も同じ

⑥ -1 あなたはSDGsを知っていますか？（年齢別）

SDGsの認知状況について尋ねた回答では、「1.知っている」は全体で91.0%(51.5%)、「2.知らない」は全体で8.7%(48.3%)と、知っている人は10人中9人の割合となっている。前回2020年のTGCから3年が経っているが、この間SDGsに対する認知度がどの年齢層でも大幅に高まっている。学校、職場での取り組みの他、メディアやSNSを通じて取り上げられる機会が身近に増えたことを反映していると思われる(表15)。

10代、20代の若い年齢層では、「知っている」と回答した人の割合は、それぞれ92.0%、91.4%と9割を超えている。30代は回答者が40人と少ないが97.5%と世代で最も高い。また、40代、50代はそれぞれ84.7%、87.5%と10代、20代に比べてやや低くなっているが、それでも9割近い人が「知っている」と回答している(図16)。

図16 あなたはSDGsを知っていますか？（年齢別） n=601

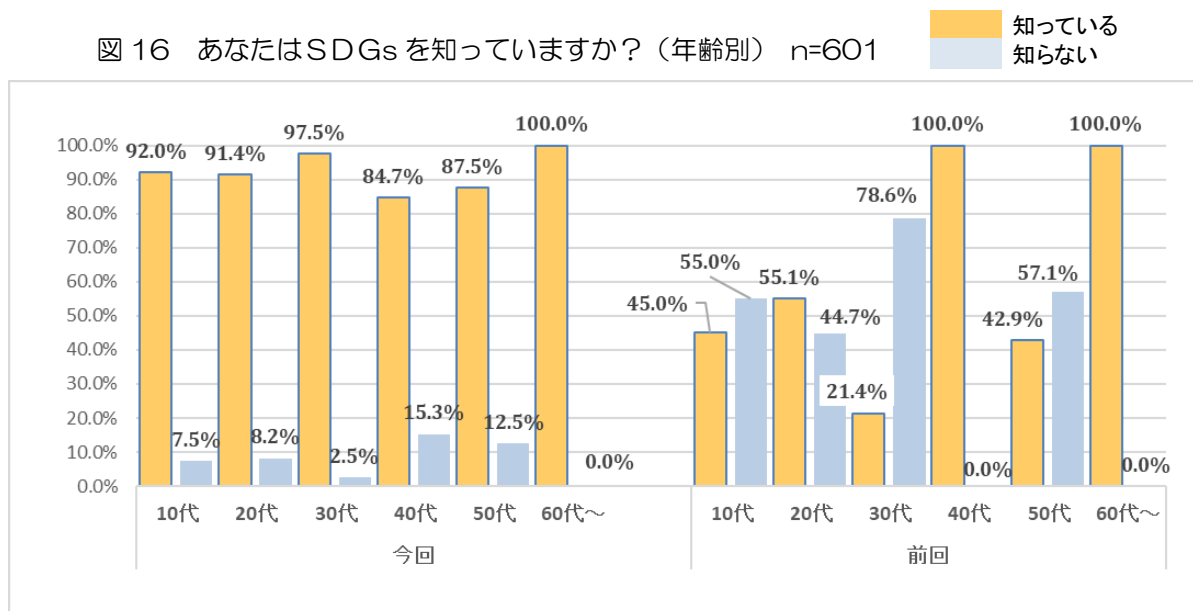


表15 あなたはSDGsを知っていますか？（年齢別） n=601

認知状況 年齢	回答数				構成比				(参考) 前回	
	1.知っている	2.知らない	無回答	合計	1.知っている	2.知らない	無回答	合計	1.知っている	2.知らない
10代	185	15	1	201	92.0%	7.5%	0.5%	100.0%	45.0%	55.0%
20代	235	21	1	257	91.4%	8.2%	0.4%	100.0%	55.1%	44.7%
30代	39	1	0	40	97.5%	2.5%	0.0%	100.0%	21.4%	78.6%
40代	50	9	0	59	84.7%	15.3%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
50代	28	4	0	32	87.5%	12.5%	0.0%	100.0%	42.9%	57.1%
60代以上	8	0	0	8	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
無回答	2	2	0	4	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	-	-
合計	547	52	2	601	91.0%	8.7%	0.3%	100.0%	51.5%	48.3%

## ⑥ -2 あなたはSDGsを知っていますか？（居住地別）

SDGs の認知状況を来場者の居住地別にみると、開催地の静岡市と静岡市以外の静岡県はともに 90.9%、静岡県以外の居住者 91.5%と 9 割を超えた高い認知度となっている（図 17）。

3 年前の回目の調査結果は表 16 の下段で示しているが、全体で 51.5%であり、認知度も静岡県以外の 34.5%から静岡市の 67.6%、静岡市を除く静岡県の 47.8%とバラつきがあったが、今回はいずれの居住地でも 90%を超えていることも大きな特徴である。

図 17 あなたはSDGsを知っていますか？（居住地別） n=601

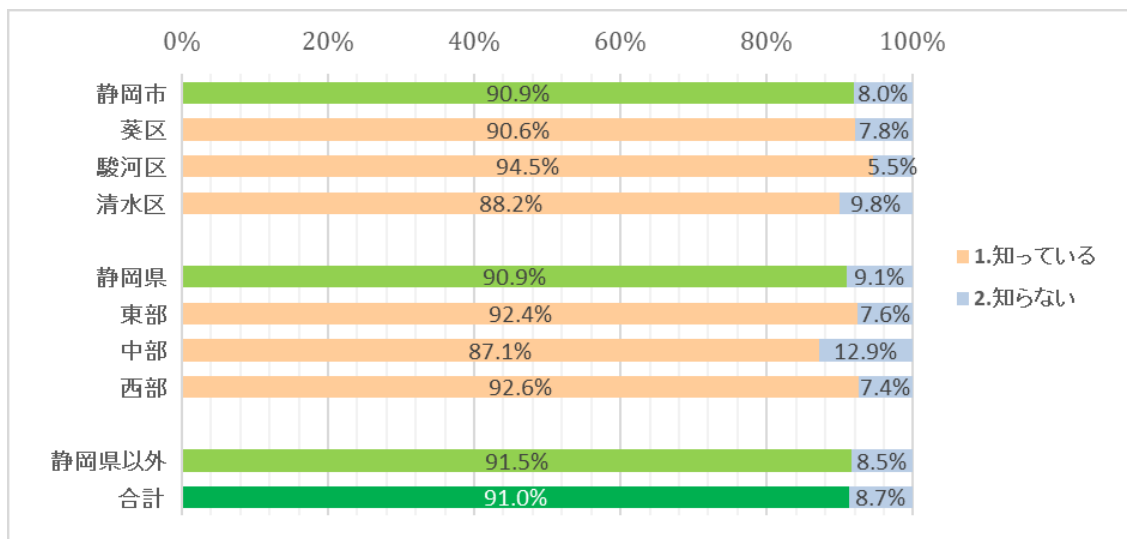


表 16 あなたはSDGsを知っていますか？（居住地別） n=601

居住地	回答数				構成比			
	1.知っている	2.知らない	無回答	合計	1.知っている	2.知らない	不詳	合計
静岡市	159	14	2	175	90.9%	8.0%	1.1%	100.0%
葵区	58	5	1	64	90.6%	7.8%	1.6%	100.0%
駿河区	52	3	0	55	94.5%	5.5%	0.0%	100.0%
清水区	45	5	1	51	88.2%	9.8%	2.0%	100.0%
無回答	4	1	0	5	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
静岡県	190	19	0	209	90.9%	9.1%	0.0%	100.0%
東部	61	5	0	66	92.4%	7.6%	0.0%	100.0%
中部	54	8	0	62	87.1%	12.9%	0.0%	100.0%
西部	75	6	0	81	92.6%	7.4%	0.0%	100.0%
静岡県以外	195	18	0	213	91.5%	8.5%	0.0%	100.0%
無回答	3	1	0	4	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
合計	547	52	2	601	91.0%	8.7%	0.3%	100.0%

（参考：前回 2020年）

静岡市	140	66	1	207	67.6%	31.9%	0.5%	100.0%
静岡県	117	128	0	245	47.8%	52.2%	0.0%	100.0%
静岡県以外	51	97	0	148	34.5%	65.5%	0.0%	100.0%
合計(無回答含む)	310	291	1	600	51.5%	48.3%	0.2%	100.0%

(注) 静岡県の東部、中部、西部の回答者の居住地は以下のとおりである。

東部	清水町	富士宮市	中部	吉田町	西部	森町
熱海市	長泉町	御殿場市	島田市	川根本町	菊川市	浜松市
伊豆の国市	三島市	裾野市	焼津市		掛川市	湖西市
函南町	沼津市	南伊豆町	藤枝市		袋井市	
裾野市	富士市	伊東市	牧之原市		磐田市	

(注) 空色は前回には参加者がなかった市町

### ⑦ 前回の TGC しずおか 2020 に来場されましたか？（居住地別）

前回の TGC しずおか 2020 に来場されたかを居住地別にみると、静岡市は 19.4%、静岡県居住者（静岡市以外）は 12.7%、静岡県以外では 2.8%、合計では 11.1%が来場していた（図 18）。前回調査では 2019 年と 2020 年と連続で開催された際の調査であったため 28.4%であった。

図 18 前回の TGC しずおか 2020 に来場されましたか？（居住地別） n=601

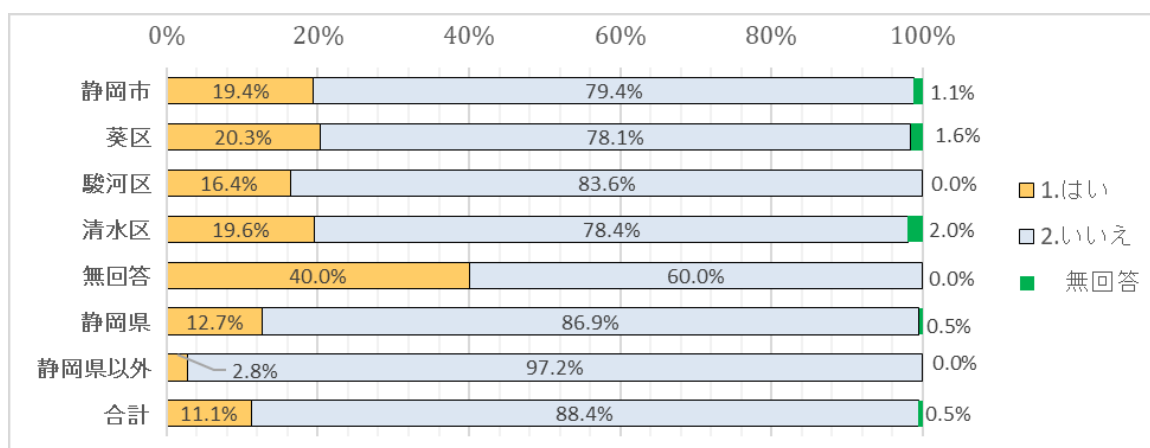


表 17 前回の TGC しずおか 2020 に来場されましたか？（居住地別） n=601

来場状況 居住地	回答数				構成比			
	1.はい	2.いいえ	無回答	合計	1.はい	2.いいえ	無回答	合計
静岡市	34	139	2	175	19.4%	79.4%	1.1%	100.0%
葵区	13	50	1	64	20.3%	78.1%	1.6%	100.0%
駿河区	9	46	0	55	16.4%	83.6%	0.0%	100.0%
清水区	10	40	1	51	19.6%	78.4%	2.0%	100.0%
無回答	2	3	0	5	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
静岡県	27	185	1	213	12.7%	86.9%	0.5%	100.0%
静岡県以外	6	207	0	213	2.8%	97.2%	0.0%	100.0%
合計	67	531	3	601	11.1%	88.4%	0.5%	100.0%

(4) TGC しずおか 2023 に関連して支出した金額などについてお答えください。

(Q3) ご家族で来られた方はご家族全体で使われる金額をお答えください。

※ 「静岡県内」は静岡市を除く静岡県内市町である

① 会場への交通手段と交通費

交通手段では、新幹線を利用したと回答した人は 163 人（来場者全体では推定 1,934 人）、電車を利用したと回答した人は 145 人（同 1,720 人）であった。飛行機を利用したと回答した人も 3 人（同 36 人）いる（居住地は長崎県、大分県）。遠方から高い交通費や時間をかけてでも来場した人の期待満足度の高さを知ることができる。自家用車を利用したと回答した人は 257 人（同 3,001 人）だった。「その他にはバイク、自転車、徒歩で来た人が含まれる。

交通費の総額は、5,450 万円と推定される。新幹線が 3,450 万円、自家用車が 1,080 万円、電車とバス・タクシーがともに 380 万円となっている。

表 18 会場への交通手段と交通費

交通費	アンケート集計結果			(参考) 経済波及効果分析のための計算値 (注3)				
	回答数 (複数回答) (注1)	回答額 合計 (円)	1人あたり 往復平均 料金(円) (注2)	来場者総数の うち利用者数 (人) (注1)	来場者の 総支出 (100万円)	静岡市内の 往復計上額 (100万円)	静岡県内の 往復計上額 (100万円) (注5)	全国への 往復計上額 (100万円)
記号・算式	A	B	C=B/A×2	D	E=C×D	F	G	H=E-G
新幹線	163	1,453,825	17,838	1,934	34.5	5.7	8.8	20.0
電車	145	161,696	2,230	1,720	3.8	1.5	1.5	0.8
バス・タクシー	126	158,178	2,511	1,495	3.8	1.5	1.5	0.8
自家用車	257	4,764,163	6,431	3,001	10.8	2.3	3.2	5.3
燃料代(注4)	257	4,445,533	1,481	3,001	4.4	0.2	1.9	2.3
高速料金	117	217,270	3,714	1,388	5.2	0.8	1.3	3.0
駐車場	82	101,360	1,236	973	1.2	1.2	-	-
飛行機 注3	3	65,000	43,333	36	1.5	-	0.8	0.8
その他	30	2,240	149	356	0.1	0.1	-	-
合計	724	6,605,102	18,246	8,542	54.5	11.0	15.8	27.6

(注1) 複数の交通手段や施設の利用者を含むため回答数の合計が601人ではなく724人となっている。「来場者総数のうち利用者数」も同じ理由で実際の入場者数の7,130人を超えて8,542人となっている。

(注2) 回答額は「事前に支出した金額、およびこれから支出する予定額」を尋ねているため、回答は基本的には往復の料金として尋ねているが、回答金額が居住地から静岡市までの交通手段の料金と比較して約半分となっている回答がほとんどであることから1人あたり往復料金は駐車場を除き「B÷A」に2を乗じて往復とした。

(注3) 「来場者の総支出」を元に静岡市・静岡県の経済波及効果を算定するために交通費が使われた地域に配分する必要があるためこの参考表を付している。地域配分は産業連関表の記述原則に沿って次の通りとしたため

- ・新幹線・電車……料金を各地域内の走行距離で按分
- ・バス・タクシー……多くが最寄のJR静岡駅から会場までの往復に支出されると想定されるが、参加者の居住地から駅までのバス料金、各居住地と静岡を走行する高速バスの利用者などを考慮し、以下の配分比率とした。
  - ・静岡市内 0.4 静岡市を除く静岡県内 0.4 静岡県を除く全国 0.2
- ・自家用車……燃料代、高速道路料金は、付表1、付表2を参照。駐車場代は全額静岡市に計上した。
- ・飛行機の航空運賃は、産業連関表の記述ルールに従い、出発地(全国)と到着地(静岡県)で1/2ずつとした。
- ・駐車場は全額を静岡市に計上、高速料金は東京駅を起点に静岡駅までの各地域内の高速道路の走行距離で按分した、

(注4) 燃料代は質問にはなく、付表1、付表2の通り別途計算して加えている。回答額は全来場者7,130人のうち自家用車を利用したと推定される3,001人(静岡県内+県外、同乗者を含む)の総支出額である。また、「1人あたり往復平均料金」は、この総額を「来場者総数のうち利用者数」3,001人で割った値である。

(注5) G列の「静岡県内」は、静岡市を除く静岡県である。

表 18 付表 1：自家用車の費用の算定（静岡市・静岡県）

自動車代 静岡県市町	自動車利 用回答数	片道走行 距離	自動車燃 料使用量	往復燃料 代（円）	往復高速 道路料金	総来場者 推定数	燃料代	高速 料金	自動車費 用合計
	（人）	（km）	（片道；L）	（168.1円 /L）注1	（ETC） 注2	（人）	（千円）	（千円）	（千円）
静岡県内（静岡市を含む）	214					2,503	2,140	1,413	3,553
伊豆半島地域計	8					95	241	270	510
伊東市	2	108.6	7.9	2,656	2740	24	63	65	128
伊豆の国市	4	82.2	5.85	1,967	2740	47	93	130	223
南伊豆町	2	150	10.6	3,564	3140	24	85	75	159
東部地域計	32					380	530	539	1,069
沼津市	6	65.0	4.59	1,543	2340	71	110	167	276
三島市	5	68.2	5.05	1,698	1170	59	101	69	170
富士宮市	5	49.5	3.64	1,224	820	59	73	49	121
富士市	11	43.4	3.24	1,089	820	130	142	107	249
御殿場市	1	81.4	5.93	1,994	3080	12	24	37	60
裾野市	1	66.3	4.84	1,627	2340	12	19	28	47
函南町	2	74.9	5.39	1,812	2340	24	43	56	99
長泉町	1	63.4	4.66	1,567	2340	12	19	28	46
中部地域計	136					1,613	533	0	533
静岡市	105	14.4	1.61	541	0	1,246	229	0	229
葵区	42	2.9	0.36	121	0	498	60	0	60
駿河区	28	1.7	0.21	71	0	332	23	0	23
清水区	35	9.8	1.04	350	0	415	145	0	145
島田市	9	34.3	2.61	877	0	107	94	0	94
焼津市	10	22	1.75	588	0	119	70	0	70
藤枝市	4	25.3	2.06	693	0	47	33	0	33
牧之原市	4	39.4	3.06	1,029	0	47	49	0	49
吉田町	2	34.2	2.58	867	0	24	21	0	21
川根本町	2	66.1	4.85	1,631	0	24	39	0	39
西部地域計	35					415	836	604	1,440
浜松市	21	86.5	6.41	2,155	1550	249	537	386	923
磐田市	3	72.8	5.37	1,805	1340	36	64	48	112
掛川市	3	56.4	4.2	1,412	1040	36	50	37	87
袋井市	3	68.1	4.99	1,678	1260	36	60	45	105
湖西市	3	111	8.03	2,700	1860	36	96	66	162
菊川市	2	49	3.62	1,217	930	24	29	22	51
居住地無回答	3					36			

（注1）燃料代はレギュラーガソリンの2023年1月の平均価格である。

（注2）西部と東部の富士市・富士宮市は高速道路と並行して走る国道1号との利用を5割ずつと仮定し高速道路料金は片道にしている。また中部の各市町は開催地と近距離にあることから高速道路を使わないと仮定した。

（注3）各市町から静岡市の会場までの走行距離、燃料の使用量、高速道路代は「NAVITIME（自動車ルート検索）」サイトを用いた。

（注4）自動車には複数の同乗者があるためアンケートでも「一緒に来た人」を尋ねているが、燃料代、高速道路代、駐車場代などを同乗者数で割って1人あたり支出額を計算し、同乗者を含めた自動車利用者の総数を乗じても、結果的には自動車の台数ベースでの計算結果と同じになるため、ここでは1人あたりではなく自動車1台あたりで計算をしている。

（注5）総来場者推定数の合計には、交通費の計算ができないため「居住地無回答」を除外している。

表 18 付表2：自家用車の費用の算定（静岡県を除く全国）

自動車代	自動車利用回答数	片道走行距離	自動車燃料使用量	往復燃料代(円)	往復高速道路料金	総来場者推定数	燃料代	高速料金	自動車費用合計
	(人)	(km)	(片道:L)	(168.1円/L) 注1	(ETC) 注2	(人) 注3	(千円)	(千円)	(千円)
都府県									
福島県	1	461.5	32.68	10,987	17,440	12	130	207	337
茨城県	1	291.0	20.51	6,895	13,740	12	82	163	245
埼玉県	1	199.4	14.10	4,740	9,040	12	56	107	163
千葉県	4	220.4	15.52	5,218	10,140	47	248	481	729
東京都	7	175.0	12.43	4,179	7,500	83	347	623	970
神奈川県	7	164.1	11.66	3,920	6,760	83	326	561	887
長野県	2	248.1	17.47	5,873	7,660	24	139	182	321
山梨県	3	102.8	7.20	2,421	2,920	36	86	104	190
愛知県	10	185.6	13.28	4,465	7,740	119	530	918	1,448
三重県	3	251.1	17.96	6,038	8,860	36	215	315	530
滋賀県	1	285.8	20.36	6,845	9,880	12	81	117	198
大阪府	1	336.1	23.73	7,978	15,080	12	95	179	274
居住地無回答	1					12			
静岡県以外合計	42					498	2,335	3,958	6,292

(注1) 令和5年1月のレギュラーガソリンの全国平均値

(注2) 各都府県庁から会場までを起点、終点とした高速料金をNAVITIMEで調べた結果である。

(注3) 「総来場者推定数」は、総来場者数7,130人×(各都府県の「自動車利用回答数」÷アンケート調査の回答総数 601人)の算式で求めているため、表記の数字は整数ではなく小数を含んでいる。そのため、右から3列目の「燃料代」と2列目の「高速料金」の金額は「総来場者推定数」を整数として算出した値とは異なっている。

② 自宅から会場までの所要時間（※静岡県内は静岡市を除く市町）

会場までの片道所要時間を尋ねた結果は、表 19 に掲げた。片道平均時間(分)を最下段で示しておいた。静岡市居住者、静岡市を除く静岡県内居住者、静岡県外の居住者は、それぞれ24.6分、61.0分、138.4分であった。「合計」では前회가68.2分であったのに対して今回は77.8分となっており、前述したように「参加者の広域化」の影響がみられる。

表 19 会場までの片道所要時間(分)別参加者数

(単位:人)

所要時間 (片道:分)	静岡市居住者		静岡県内居住者		静岡県外居住者		合計	
	今回 2023年	前回 2020年	今回 2023年	前回 2020年	今回 2023年	前回 2020年	今回 2023年	前回 2020年
～10	17	18					17	18
11～20	47	78	2	3			49	81
21～30	76	66	15	22			91	88
31～40	9	8	16	18			25	26
41～50	6	12	13	16			19	28
51～60	16	15	85	90	8	11	109	116
61～90	1	5	55	63	23	9	79	77
91～120		1	22	27	59	44	81	72
121～180		1	4	4	73	37	77	42
181～240					34	20	34	20
241～					15	26	15	26
時間不詳	3		1		1	8	5	8
合計	175	204	213	243	213	155	601	602
平均:分	24.6	25.7	61.0	60.7	138.4	135.9	77.8	68.2

(注1) 平均時間の計算に際して表側は範囲の中間値(11分～20分の場合15分とするなど)を用いた。

(注2) 静岡市と全国平均所要時間(分)が減少しているのに対して、合計欄では今回の所要時間が大きく増加しているのは、会場近くの静岡市の参加者が少なくなる反面で遠方の静岡県、全国の参加者が多くなって比重を高めていることが合計値に反映しているからである。



### ③ TGCしずおか 2023 に関連して支出した金額

交通費を除く会場内外での支出については、表20の通りである。参加者の広域化を反映して「宿泊費」「飲食費」が前回2020年と比べて回答額の合計は多くなっているが、他の買い物や美容などについては減少している。

表20 来場者の支出額

支出額など		回答者数 (人)	回答額計 (円)	回答者1 人当り支 出額(円)	全参加者 中の支出者 数(人)	全参加者 推定支出額 (100万円)	全参加者 推定支出額 (100万円)	全参加者 推定支出額 (100万円)
費目・地域								
記号・計算式		A	B	C=B/A	D=A/601人 ×7,130人	E=C×D	(参考) 2020年	(参考) 2019年
宿泊費	総数	72	575,270	7,990	854	6.8	4.1	7.0
	静岡市内	52	385,270	7,409	617	4.6	2.7	4.3
	静岡県内	8	76,000	9,500	95	0.9	1.3	1.6
	全国	12	114,000	9,500	142	1.4	0.1	1.1
飲食費	総数	428	1,213,609	2,836	5,078	14.4	11.4	19.8
	静岡市内	358	1,041,048	2,908	4,247	12.4	8.9	14.9
	静岡県内	44	93,361	2,122	522	1.1	1.6	4.2
	全国	26	79,200	3,046	308	0.9	0.9	0.6
洋服・帽子	総数	169	1,289,990	7,633	2,005	15.3	30.8	81.1
	静岡市内	105	697,490	6,643	1,246	8.3	18.6	46.8
	静岡県内	37	287,500	7,770	439	3.4	6.1	20.1
	全国	27	305,000	11,296	320	3.6	6.1	14.2
ズシグバユッ	総数	76	590,901	7,775	902	7.0	14.4	84.0
	静岡市内	48	366,200	7,629	569	4.3	7.6	36.4
	静岡県内	16	149,701	9,356	190	1.8	3.8	25.4
	全国	12	75,000	6,250	142	0.9	3.0	22.2
サアクーセ	総数	55	315,560	5,737	652	3.7	8.4	65.9
	静岡市内	38	193,700	5,097	451	2.3	6.5	28.9
	静岡県内	8	18,500	2,313	95	0.2	1.4	21.7
	全国	9	103,360	11,484	107	1.2	0.5	15.3
化粧品	総数	85	374,700	4,408	1,008	4.4	11.5	58.2
	静岡市内	53	199,900	3,772	629	2.4	7.2	25.2
	静岡県内	21	96,800	4,610	249	1.1	3.0	18.3
	全国	11	78,000	7,091	130	0.9	1.3	14.7
会場内グッズ	総数	58	176,400	3,041	688	2.1	3.5	28.6
	静岡市内	51	149,400	2,929	605	1.8	2.3	23.5
	静岡県内	6	22,000	3,667	71	0.3	0.6	4.5
	全国	1	5,000	5,000	12	0.1	0.6	0.6
お土産	総数	83	213,800	2,576	985	2.5	3.1	10.5
	静岡市内	69	183,300	2,657	819	2.2	2.5	9.5
	静岡県内	6	10,000	1,667	71	0.1	0.5	0.6
	全国	8	20,500	2,563	95	0.2	0.1	0.3
美容費	総数	164	1,545,000	9,421	1,946	18.3	24.2	80.8
	静岡市内	60	502,700	8,378	712	6.0	12.7	37.2
	静岡県内	61	611,300	10,021	724	7.3	6.3	23.4
	全国	43	431,000	10,023	510	5.1	5.1	20.2
総合計	延べ回答者数	1,190	6,295,230	5,290	14,118	74.7	111.3	436.0
	静岡市内	834	3,719,008	4,459	9,894	44.1	69.0	226.7
	静岡県内	207	1,365,162	6,595	2,456	16.2	24.7	119.9
	静岡県外	149	1,211,060	8,128	1,768	14.4	17.7	89.3

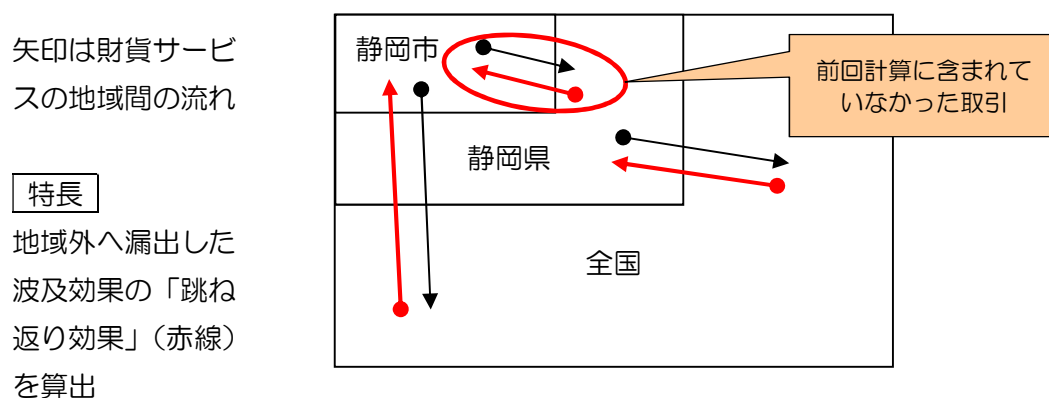
(注1) 複数回答のため、合計欄の人数は延べ人数となっている。

### 3. 地域経済波及効果の分析

#### (1) 経済波及効果の分析方法

項目	解説
分析対象地域	○静岡市 ○静岡県
最終需要	○経済波及効果の起点となるお金の支出 ○本調査では、次の支出を取り上げている。 ① 来場者の支出 ② 来場者の交通費（自動車の燃料代を含む） ③ 主催者の運営経費（静岡市内調達分）
基礎データとしての産業連関表の特徴	○平成 27 年静岡市産業連関表（静岡市）と平成 27 年産業連関表（静岡県）、平成 27 年産業連関表（国：総務省統計局）の3地域の産業連関表を連結させた「平成 27 年静岡市-静岡県-全国3地域間産業連関表」を作成し用いた。（本ページ参考図参照） ○今回は平成 23 年表を用いて、静岡市-全国、静岡県-全国のそれぞれ 2 地域間産業連関表を作成し用いたため、今回はより精度が高くなっている。
理論モデルの特徴	○家計内生化モデルを使用（次ページ理論モデル参照）。波及効果の結果、生産誘発に伴って生じる雇用者所得と家計消費の誘発が、さらなる生産誘発をもたらすプロセスを収束するまで把握できる特徴がある。（通常は間接二次効果として1回だけ計算する）
経済波及効果	○以下の効果を算出した。 ① 生産誘発効果（企業・産業への効果） ② 雇用効果（家計への効果） ③ 税収効果（市税、県税の増収など行政への効果） ④ 定住人口効果（地域社会への効果） ※雇用の誘発による家族を含む定住人口が増える効果

（参考図 1）静岡市—静岡県—全国3地域間産業連関表で把握する地域間経済取引



(理論モデル式)

$$\begin{bmatrix} \Delta X \\ \Delta V \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} I - TA & -Tc \\ -v & I \end{bmatrix} \begin{bmatrix} T\Delta F_d + \Delta E \\ 0 \end{bmatrix}$$

記号注  $\Delta X$ ：生産誘発額  $\Delta V$ ：誘発付加価値額  $I$ ：単位行列  
 $T$ ：交易係数（地域別移出または移入配分率）  $A$ ：投入係数  
 $\Delta F_d$ ：地域内最終需要の変化  $\Delta E$ ：移輸出の変化

(基礎データ)

2019年の初回、2020年の第2回のTGCしずおかの経済波及効果の計算で用いた静岡市及び静岡県の産業連関表は、平成23年（2011年）の産業連関表であったが、今回は5年ごとに作成される国（総務省統計局）と静岡県（知事直轄組織データ活用推進課）の産業連関表がともに平成27年（2015年）表に切り替わったこと、静岡市（経済局 商工部 産業政策課）でも平成27年表を公表されたことから、今回の分析では、静岡市、静岡県、全国の平成27年のそれぞれの産業連関表を連結の接着剤となる交易係数を用いて連結させた「平成27年静岡市-静岡県-全国3地域間産業連関表」を新たに作成し、分析にあたった。

図 21 静岡市—静岡県—全国3地域間産業連関表のしくみ

投入		産出		中間需要						最終需要						生産額 合計		
				静岡市		静岡県		全国		静岡市		静岡県		全国			輸出	輸入
				産業 A	産業 B	産業 A	産業 B	産業 A	産業 B	消費	投資	消費	投資	消費	投資			
中間 投入	静岡市	産業A																
		産業B																
	静岡県	産業A																
		産業B																
	全国	産業A																
		産業B																
粗付加価値																		
生産額合計																		

→ヨコ行は財貨サービスの販路先を(産出)を示す  
↓タテ列は財貨サービスの購入元(投入)を示す

## (2) 経済波及効果の起点となる最終需要

地域経済波及効果の起点となるのが最終需要であるが、TGC しずおか 2023 の最終需要は、次の2つが柱となる。

- ① 最終需要1（来場者の支出） 来場者の宿泊費、飲食費、買い物、美容、交通費
- ② 最終需要2 主催者の運営経費

うち、①の来場者の支出は、開催当日、会場内で参加者を実施したアンケート調査結果（n=601）を元に1人あたり費目別平均支出額を得た。最終需要1はこの1人あたり支出額に来場者数（7,130人）に乗じて求めた。では、順にみてゆこう。

## ① 最終需要1-来場者の支出（交通費以外）

来場者の費目別1人あたり支出額を「全参加者の中の支出者数」に乗じた「全参加者推定支出額」は、次の表21の通りとなった。後者は、アンケートの費目別回答者数をアンケート回答者総数（n=601）で割った比率を、全参加者数7,130人に乗じている。

表21 来場者の支出（宿泊、飲食、買い物等—交通費を除く）（表20再掲）

支出額など		回答者数 (人)	回答額計 (円)	回答者1 人当り支 出額(円)	全参加者の 中の支出者 数(人)	全参加者 推定支出額 (100万円)	全参加者 推定支出額 (100万円)	全参加者 推定支出額 (100万円)
費目・地域		A	B	C=B/A	D=A/601人 ×7,130人	E=C×D	(参考) 2020年	(参考) 2019年
記号・計算式		A	B	C=B/A	D=A/601人 ×7,130人	E=C×D	(参考) 2020年	(参考) 2019年
宿泊費	総数	72	575,270	7,990	854	6.8	4.1	7.0
	静岡市内	52	385,270	7,409	617	4.6	2.7	4.3
	静岡県内	8	76,000	9,500	95	0.9	1.3	1.6
	全国	12	114,000	9,500	142	1.4	0.1	1.1
飲食費	総数	428	1,213,609	2,836	5,078	14.4	11.4	19.8
	静岡市内	358	1,041,048	2,908	4,247	12.4	8.9	14.9
	静岡県内	44	93,361	2,122	522	1.1	1.6	4.2
	全国	26	79,200	3,046	308	0.9	0.9	0.6
洋服・帽子	総数	169	1,289,990	7,633	2,005	15.3	30.8	81.1
	静岡市内	105	697,490	6,643	1,246	8.3	18.6	46.8
	静岡県内	37	287,500	7,770	439	3.4	6.1	20.1
	全国	27	305,000	11,296	320	3.6	6.1	14.2
ズシ グバ ッ	総数	76	590,901	7,775	902	7.0	14.4	84.0
	静岡市内	48	366,200	7,629	569	4.3	7.6	36.4
	静岡県内	16	149,701	9,356	190	1.8	3.8	25.4
	全国	12	75,000	6,250	142	0.9	3.0	22.2
サア リク ー セ	総数	55	315,560	5,737	652	3.7	8.4	65.9
	静岡市内	38	193,700	5,097	451	2.3	6.5	28.9
	静岡県内	8	18,500	2,313	95	0.2	1.4	21.7
	全国	9	103,360	11,484	107	1.2	0.5	15.3
化粧品	総数	85	374,700	4,408	1,008	4.4	11.5	58.2
	静岡市内	53	199,900	3,772	629	2.4	7.2	25.2
	静岡県内	21	96,800	4,610	249	1.1	3.0	18.3
	全国	11	78,000	7,091	130	0.9	1.3	14.7
グ会 ッ場 ズ内	総数	58	176,400	3,041	688	2.1	3.5	28.6
	静岡市内	51	149,400	2,929	605	1.8	2.3	23.5
	静岡県内	6	22,000	3,667	71	0.3	0.6	4.5
	全国	1	5,000	5,000	12	0.1	0.6	0.6
お土 産	総数	83	213,800	2,576	985	2.5	3.1	10.5
	静岡市内	69	183,300	2,657	819	2.2	2.5	9.5
	静岡県内	6	10,000	1,667	71	0.1	0.5	0.6
	全国	8	20,500	2,563	95	0.2	0.1	0.3
美容費	総数	164	1,545,000	9,421	1,946	18.3	24.2	80.8
	静岡市内	60	502,700	8,378	712	6.0	12.7	37.2
	静岡県内	61	611,300	10,021	724	7.3	6.3	23.4
	全国	43	431,000	10,023	510	5.1	5.1	20.2
総合計	延べ回答者数	1,190	6,295,230	5,290	14,118	74.7	111.3	436.0
	静岡市内	834	3,719,008	4,459	9,894	44.1	69.0	226.7
	静岡県内	207	1,365,162	6,595	2,456	16.2	24.7	119.9
	静岡県外	149	1,211,060	8,128	1,768	14.4	17.7	89.3

(注1) 複数回答のため、合計欄の人数は延べ人数となっている。

表 21 の全来場者の推定支出の合計額は 7,470 万円であった。表の右2列に掲げた2020年の第2回(前回)が 1億 1,130万円、最初のTGCである前々回(2019年)が 4億 3,600万円であったことを見ると、経年的にかなりの減少となっている。

初回の2019年から2回目の2020年の2回のアンケート調査時の入力データにさかのぼって再計算してみたが、推計方法は今回と同じで表21に掲げた前回及び前々回の数値に誤りや推計方法の変更はなかった。とすると今回、何が購入者数を減らす要因となったのか、経済波及効果の大きさに影響を与えるデータなので、その背景を次ページの「表21付表 来場者の支出-対前回」と下記(参考図)を参考に、以下の通り推察してみた。

まず全体として言える大きな特徴は「1人当たり消費額」の9費目のうち7費目が100%を超えて上昇している反面で、回答者(購入者)数では9費目のうち8費目が低下していることである。このことは、「価格Pが上昇すれば需要量Q(購入者数)が減少する」という経済学の基礎的な知識が当てはまる例証かもしれない。いいかえれば、「回答者(購入者)数の減少は価格が上昇したからである」という推論が成り立つ可能性がある。

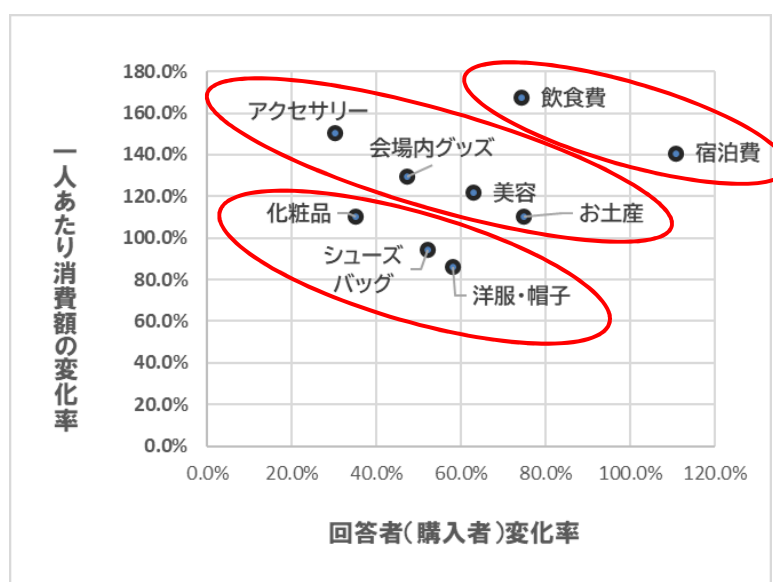
これと関連する第二の特徴は、一見バラバラに見える散布図の9つの費目の位置であるが、図の中で赤い線で囲んだ3つの費目群に、それぞれなんらかの共通した購買動機があると仮定した場合、いずれも「価格」の変化率(上昇率)が高いほど、購入者数(≒需要量)の変化率が比例的に低くなっていることである。

3つの費目群の1つめは「宿泊費、飲食費」のグループであり、これらは参加者の広域化を反映した「必需品」ともいえる支出費目である。価格(料金)が高くなっても需要量を減らすことができない。

3つの商品群の2つめは家族や親しい友人へのお土産を含め、自分のための支出も欠かせない「準必需品」的な費目群である。いずれも価格の上昇率が高ければ高いほど、需要量(購入者数)は減少していることがみてとれる。

3つめは「化粧品、シューズ・バッグ、洋服・帽子」の商品群であり、いわゆる「必需品」

(参考図) 1人あたり支出額と購入者数の対前回比変化率



ではなく、どちらかというを買っても買わなくてもよい費目群で、自分のための「選択的支出」の性質をもつ。「洋服・帽子」の1人あたり支出額（≒価格変化率）が100%を下回っても購入者数が減少しているのは、コロナ下で収入が伸び悩む中で買い控えをしている女性の購買行動を伺えるデータではないだろうか（表21 付表参照）。

表21 付表 来場者の支出（宿泊、飲食、買い物等—交通費を除く）—対前回

費目	購入地	回答者数(人)		1人当たり消費額		今回÷前回の变化率	
		今回 n=601	前回 n=602	今回 (円)	前回 (円)	回答者数 (人)	1人あたり 消費額
宿泊費	静岡市内	52	47	7,409	5,442	110.6%	136.2%
	静岡県内	8	17	9,500	6,250	47.1%	152.0%
	全国	12	1	9,500	7,000	1200.0%	135.7%
	全体	72	65	7,990	5,677	110.8%	140.7%
飲食費	静岡市内	358	449	2,908	1,652	79.7%	176.0%
	静岡県内	44	87	2,122	1,510	50.6%	140.5%
	全国	26	40	3,046	1,878	65.0%	162.2%
	全体	428	576	2,836	1,647	74.3%	172.2%
洋服・帽子	静岡市内	105	193	6,643	8,004	54.4%	83.0%
	静岡県内	37	55	7,770	9,255	67.3%	84.0%
	全国	27	43	11,296	11,791	62.8%	95.8%
	全体	169	291	7,633	8,800	58.1%	86.7%
シューズ・バッグ	静岡市内	48	84	7,629	7,559	57.1%	100.9%
	静岡県内	16	42	9,356	7,523	38.1%	124.4%
	全国	12	20	6,250	12,545	60.0%	49.8%
	全体	76	146	7,775	8,232	52.1%	94.5%
アクセサリ	静岡市内	38	108	5,097	4,977	35.2%	102.4%
	静岡県内	8	54	2,313	2,187	14.8%	105.8%
	全国	9	21	11,484	1,917	42.9%	599.1%
	全体	55	183	5,737	3,802	30.1%	150.9%
化粧品	静岡市内	53	143	3,772	4,164	37.1%	90.6%
	静岡県内	21	71	4,610	3,569	29.6%	129.1%
	全国	11	29	7,091	3,719	37.9%	190.7%
	全体	85	243	4,408	3,937	35.0%	112.0%
会場内グッズ	静岡市内	51	87	2,929	2,222	58.6%	131.9%
	静岡県内	6	28	3,667	1,766	21.4%	207.7%
	全国	1	8	5,000	5,775	12.5%	86.6%
	全体	58	123	3,041	2,349	47.2%	129.5%
お土産	静岡市内	69	87	2,657	2,644	79.3%	100.5%
	静岡県内	6	28	1,667	1,777	21.4%	93.8%
	全国	8	8	2,563	999	100.0%	256.4%
	全体	83	123	2,576	2,330	67.5%	110.5%
美容(ネイル・ヘアカットなど)	静岡市内	60	136	8,378	7,797	44.1%	107.5%
	静岡県内	61	82	10,021	6,431	74.4%	155.8%
	全国	43	43	10,023	9,952	100.0%	100.7%
	全体	164	261	9,421	7,723	62.8%	122.0%
総合計	静岡市内	834	1,325	4,459	4,333	62.9%	102.9%
	静岡県内	207	461	6,595	4,458	44.9%	147.9%
	全国	149	213	8,128	6,903	70.0%	117.8%
	全体	1,190	1,999	5,290	4,636	59.5%	114.1%

(注)回答者数は、複数回答のため重複した延べ人数となっている。

## ② 最終需要 2-来場者の支出（交通費）

交通手段別に交通費への支出をまとめたのが表 22 である。アンケートの集計結果である表 18 と同じ表であるが、ここでは経済波及効果の起点である最終需要として再掲した。次ページの表 22 付表 1 及び表 22 付表 2 も同じ意図で再掲している。

交通費は、例えば東京から静岡まで新幹線を利用した場合、往復料金（5,830 円×2＝11,660 円）をそのまま最終需要として経済波及効果分析に入力するのではなく、往復料金の静岡市内走行分を距離で按分し（静岡市内走行距離÷東京と静岡間の距離）、この比率を往復料金に乘じることが必要である。産業連関表に基づくこの手続きは、輸送機関が利用者に提供するサービスを、現金の流れでとらえる（現金主義）のではなく、サービスの生産過程（発生主義）でとらえるためである。表 22 付表 1・同付表 2 の燃料代も、静岡市内走行分（走行距離分）など同じ方法で求めている。

表 22 来場者の支出（自動車燃料を除く交通費）（表 18 再掲）

交通費	アンケート集計結果			（参考）経済波及効果分析のための計算値（注3）				
	回答数 （複数回答） （注1）	回答額 合計 （円）	1人あたり 往復平均 料金（円） （注2）	来場者総数の うち利用者数 （人） （注1）	来場者の 総支出 （100万円）	静岡市内の 往復計上額 （100万円）	静岡県内の 往復計上額 （100万円） （注5）	全国への 往復計上額 （100万円）
記号・算式	A	B	C=B/A×2	D	E=C×D	F	G	H=E-G
新幹線	163	1,453,825	17,838	1,934	34.5	5.7	8.8	20.0
電車	145	161,696	2,230	1,720	3.8	1.5	1.5	0.8
バス・タクシー	126	158,178	2,511	1,495	3.8	1.5	1.5	0.8
自家用車	257	4,764,163	6,431	3,001	10.8	2.3	3.2	5.3
燃料代（注4）	257	4,445,533	1,481	3,001	4.4	0.2	1.9	2.3
高速料金	117	217,270	3,714	1,388	5.2	0.8	1.3	3.0
駐車場	82	101,360	1,236	973	1.2	1.2	-	-
飛行機注3	3	65,000	43,333	36	1.5	-	0.8	0.8
その他	30	2,240	149	356	0.1	0.1	-	-
合計	724	6,605,102	18,246	8,542	54.5	11.0	15.8	27.6

（注1）複数の交通手段や施設の利用者を含むため回答数の合計が601人ではなく724人となっている。「来場者総数のうち利用者数」も同じ理由で実際の入場者数の7,130人を超えて8,542人となっている。

（注2）回答額は「事前に支出した金額、およびこれから支出する予定額」を尋ねているため、回答は基本的には往復の料金として尋ねているが、回答金額が居住地から静岡市までの交通手段の料金と比較して約半分となっている回答がほとんどであることから1人あたり往復料金は駐車場を除き「B÷A」に2を乗じて往復とした。

（注3）「来場者の総支出」を元に静岡市・静岡県の経済波及効果を算定するために交通費が使われた地域に配分する必要があるためこの参考表を付している。地域配分は産業連関表の記述原則に沿って次の通りとしたため

・新幹線・電車……料金を各地域内の走行距離で按分

・バス・タクシー……多くが最寄のJR静岡駅から会場までの往復に支出されると想定されるが、参加者の居住地から駅までのバス料金、各居住地と静岡を走行する高速バスの利用者などを考慮し、以下の配分比率とした。  
・静岡市内 0.4 静岡市を除く静岡県内 0.4 静岡県を除く全国 0.2

・自家用車……燃料代、高速道路料金は、付表1、付表2を参照。駐車場代は全額静岡市に計上した。

・飛行機の航空運賃は、産業連関表の記述ルールに従い、出発地（全国）と到着地（静岡県）で1/2ずつとした。

・駐車場は全額を静岡市に計上、高速料金は東京駅を起点に静岡駅までの各地域内の高速道路の走行距離で按分した、

（注4）燃料代は質問にはなく、付表1、付表2の通り別途計算して加えている。回答額は全来場者7,130人のうち自家用車を利用したと推定される3,001人（静岡県内+県外、同乗者を含む）の総支出額である。また、「1人あたり往復平均料金」は、この総額を「来場者総数のうち利用者数」3,001人で割った値である。

（注5）G列の「静岡県内」は、静岡市を除く静岡県である。

表 22 付表 1 自家用車の燃料代の算出（静岡市・静岡県居住者）（表 18 付表 1 再掲）

自動車代	自動車利	片道走行	自動車燃	往復燃料	往復高速	総来場者	燃料代	高速	自動車費
	用回答数	距離	料使用量	代(円)	道路料金	推定数		料金	用合計
静岡県市町	(人)	(km)	(片道:L)	(168.1円/L) 注1	(ETC) 注2	(人)	(千円)	(千円)	(千円)
静岡県内(静岡市を含む)	214					2,503	2,140	1,413	3,553
伊豆半島地域計	8					95	241	270	510
伊東市	2	108.6	7.9	2,656	2740	24	63	65	128
伊豆の国市	4	82.2	5.85	1,967	2740	47	93	130	223
南伊豆町	2	150	10.6	3,564	3140	24	85	75	159
東部地域計	32					380	530	539	1,069
沼津市	6	65.0	4.59	1,543	2340	71	110	167	276
三島市	5	68.2	5.05	1,698	1170	59	101	69	170
富士宮市	5	49.5	3.64	1,224	820	59	73	49	121
富士市	11	43.4	3.24	1,089	820	130	142	107	249
御殿場市	1	81.4	5.93	1,994	3080	12	24	37	60
裾野市	1	66.3	4.84	1,627	2340	12	19	28	47
函南町	2	74.9	5.39	1,812	2340	24	43	56	99
長泉町	1	63.4	4.66	1,567	2340	12	19	28	46
中部地域計	136					1,613	533	0	533
静岡市	105	14.4	1.61	541	0	1,246	229	0	229
葵区	42	2.9	0.36	121	0	498	60	0	60
駿河区	28	1.7	0.21	71	0	332	23	0	23
清水区	35	9.8	1.04	350	0	415	145	0	145
島田市	9	34.3	2.61	877	0	107	94	0	94
焼津市	10	22	1.75	588	0	119	70	0	70
藤枝市	4	25.3	2.06	693	0	47	33	0	33
牧之原市	4	39.4	3.06	1,029	0	47	49	0	49
吉田町	2	34.2	2.58	867	0	24	21	0	21
川根本町	2	66.1	4.85	1,631	0	24	39	0	39
西部地域計	35					415	836	604	1,440
浜松市	21	86.5	6.41	2,155	1550	249	537	386	923
磐田市	3	72.8	5.37	1,805	1340	36	64	48	112
掛川市	3	56.4	4.2	1,412	1040	36	50	37	87
袋井市	3	68.1	4.99	1,678	1260	36	60	45	105
湖西市	3	111	8.03	2,700	1860	36	96	66	162
菊川市	2	49	3.62	1,217	930	24	29	22	51
居住地無回答	3					36			

- (注1) 燃料代はレギュラーガソリンの2023年1月の平均価格である。  
(注2) 西部と東部の富士市・富士宮市は高速道路と並行して走る国道1号との利用を5割ずつと仮定し高速道路料金は片道にしている。また中部の各市町は開催地と近距離にあることから高速道路を使わないと仮定した。  
(注3) 各市町から静岡市の会場までの走行距離、燃料の使用量、高速道路代は「NAVITIME(自動車ルート検索)」サイトを用いた。  
(注4) 自動車には複数の同乗者があるためアンケートでも「一緒に来た人」を尋ねているが、燃料代、高速道路代、駐車場代などを同乗者数で割って1人あたり支出額を計算し、同乗者を含めた自動車利用者の総数を乗じて、結果的には自動車の台数ベースでの計算結果と同じになるため、ここでは1人あたりではなく自動車1台あたりで計算をしている。  
(注5) 総来場者推定数の合計には、交通費の計算ができないため「居住地無回答」を除外している。

表 22 付表 2 自家用車の燃料代の算出（静岡県以外の都府県居住者）（表 18 付表 2 再掲）

自動車代	自動車利	片道走行	自動車燃	往復燃料	往復高速	総来場者	燃料代	高速	自動車費
	用回答数	距離	料使用量	代(円)	道路料金	推定数		料金	用合計
都府県	(人)	(km)	(片道:L)	(168.1円/L) 注1	(ETC) 注2	(人) 注3	(千円)	(千円)	(千円)
福島県	1	461.5	32.68	10,987	17440	12	130	207	337
茨城県	1	291.0	20.51	6,895	13740	12	82	163	245
埼玉県	1	199.4	14.10	4,740	9040	12	56	107	163
千葉県	4	220.4	15.52	5,218	10,140	47	248	481	729
東京都	7	175.0	12.43	4,179	7500	83	347	623	970
神奈川県	7	164.1	11.66	3,920	6760	83	326	561	887
長野県	2	248.1	17.47	5,873	7660	24	139	182	321
山梨県	3	102.8	7.20	2,421	2920	36	86	104	190
愛知県	10	185.6	13.28	4,465	7740	119	530	918	1,448
三重県	3	251.1	17.96	6,038	8860	36	215	315	530
滋賀県	1	285.8	20.36	6,845	9880	12	81	117	198
大阪府	1	336.1	23.73	7,978	15080	12	95	179	274
居住地無回答	1					12			
静岡県以外合計	42					498	2,335	3,958	6,292

- (注1) 令和5年1月のレギュラーガソリンの全国平均値  
(注2) 各都府県庁から会場までを起点、終点とした高速料金をNAVITIMEで調べた結果である。  
(注3) 「総来場者推定数」は、総来場者数7,130人×(各都府県の「自動車利用回答数」÷アンケート調査の回答総数 601人)の算式で求められているため、表記の数字は整数ではなく小数を含んでいる。そのため、右から3列目の「燃料代」と2列目の「高速料金」の金額は「総来場者推定数」を整数として算出した値とは異なっている。



### ③ 最終需要 3—主催者の運営支出

経済波及効果の起点となる第 2 の柱として、開催に係る主催者の運営支出がある。そのうち、静岡市内、静岡県内（静岡市を含む）における運営支出額は、それぞれ 5,150 万円、7,750 万円と見込まれる（表 23）。

### ④ 最終需要のまとめ

以上をまとめると、経済波及効果の起点となる最終需要の額と地域別支出額は、表 23 の通りとなる。注記でも記したように「2.主催者の運営支出」は個別企業の売上となるため、X で関連項目を秘匿扱いとしている。

費目別では「1.来場者の支出」が 1 億 2,920 万円で、その内訳は「(1)宿泊費・飲食費・買い物など」が 7,470 万円、「(2)交通費」が 5,450 万円であった。

地域別では静岡市が 1 億 670 万円、静岡市を含む静岡県が 1 億 6,470 万円であった。

下段の表は前回 2020 年の際の最終需要の推計結果である。今回を前回と比べてみると費目別では来場者の支出は、今回 1 億 2,920 万円と前回 1 億 2,970 万円は殆ど同額であるが、内訳の来場者の「宿泊費・飲食費・買い物など」7,470 万円は前回の 1 億 1,130 万円と比べて 67.1%になっているのに対して「来場者の交通費」がその減少を埋め合わせる額だけ増えている（1,850 万円から 5,450 万円へ 294.6%増）。交通費の増加は、新幹線で来る人の増加など居住地の広域化や、燃料も含めた物価高騰と買い控えの影響が大きい。

地域別の最終需要は、静岡市では減少し、静岡市を除く静岡県内は増加している。

表 23 最終需要のまとめ（費目別・支出地別）

（単位：100万円）

最終需要	静岡市内	静岡県内	静岡市を含む静岡県内	静岡県以外の全国	合計
1. 来場者の支出	55.2	32.0	87.2	42.0	129.2
（1）宿泊費・飲食費・買い物など	44.1	16.2	60.3	14.4	74.7
（2）交通費	11.0	15.8	26.8	27.6	54.5
2. 主催者の運営支出	51.5	26.0	77.5	X	X
合計	106.7	58.0	164.7	X	X

（注）「2.主催者の運営支出」は個別企業の売上額となるため、Xで一部と全体を秘匿数字としている。

（前回の開催の最終需要）

（単位：100万円）

前回TGC(2020年)最終需要	静岡市内	静岡県内	静岡市を含む静岡県内	静岡県以外の全国	合計
1. 来場者の支出	75.8	30.4	106.2	23.5	129.7
（1）宿泊費・飲食費・買い物など	69.0	24.6	93.6	17.7	111.3
（2）交通費	6.8	5.8	12.6	5.8	18.5
2. 主催者の運営支出	46.6	25.0	71.6	X	X
合計	122.4	55.4	177.9	X	X

（注）「2.主催者の運営支出」の扱いは同上。

### (3) 経済波及効果の分析結果

#### ① 企業・産業への経済波及効果（生産誘発効果）

来場者や主催者が静岡市内で支出したお金（最終需要）は合計で1億670万円であった。そのうち輸入品を除いて市内に落ちる直接効果は1億240万円となり、このお金が間接効果を誘発し、最終的に静岡市内へ2億570万円の経済波及効果をもたらしている（前回は2億3,400万円、前回は87.9%）。

一方、静岡県の経済波及効果（静岡市を含む）は3億1,740万円であった（前回は3億2,320万円、前回は98.2%）。

静岡市、静岡県とも経済波及効果が減少している理由は、波及の起点となる最終需要が、静岡市では87.1%に、静岡県では92.5%へと減少していることによる。最終需要の減少は、その中心を占める来場者の買い物などについて、購入者の1人あたり消費額は増加（≒物価の高騰）しているのに対し、購入者数が大幅に減少していることが原因となっている。

#### ② 家計への雇用効果

生産の増加は、就業者数の増加につながる。TGCは1日だけのイベントであるため、静岡市内や県内での恒常的な雇用増加は見込めないが、1日だけの生産の増加が正規雇用換算では静岡市内に23人、静岡市も含めた静岡県内へは35人の雇用を創出するインパクトを持っている。

表24 経済波及効果のまとめ

(単位:100万円)

項目	記号/ 算式	内容	静岡県			静岡県 以外の 都道府 県	全国/ 合計
			静岡市	静岡市を 除く 静岡県	静岡県 合計		
最終需要	A	経済波及効果の起点	106.7	57.9	164.6	X(注3)	X(注3)
直接効果(注1)	B	地域に直接落ちるお金	102.4	55.2	157.7	114.9	272.6
間接効果	C	地域内間接効果+跳ね返り効果	103.3	56.4	159.7	369.8	529.4
経済波及効果	D=B+C	産業への効果(生産誘発)	205.7	111.7	317.4	484.6	802.0
地域間の 跳ね返り効果 (注2)	E	静岡市から市内外への波及	199.3	11.9	211.2	92.5	303.7
	F	静岡県から静岡市と全国への波及	6.0	97.3	103.2	58.0	161.2
	G	全国から静岡市と静岡県への波及	0.4	2.5	2.9	334.2	337.1
※波及倍率	H=D/B	経済波及効果÷直接効果	2.01	2.02	2.01	4.22	2.94
雇用効果(人)	I	家計への効果(就業者誘発)	23	11	35	580	615
税收効果(100万円)	J	行政への効果(税・交付金等増収)	8.8	…	10.7	…	…
定住人口効果(人)	K	地域社会への効果(定住人口創出)	45	0	69	0	…

(注1) 最終需要のうち一部は輸入品に回り、各地の事業者には落ちるお金(直接効果)の額は最終需要の額より少なくなる

(注2) 地域相互間のこの欄の経済波及の「跳ね返り効果」は、本分析にあたり作成した「静岡市-静岡県-全国3地域間産業連関表」によって初めて把握できる経済効果であり、通常の1地域だけの産業連関表では地域外へ漏出した波及は切り捨てて地域外から「跳ね返る効果」は計算に含めないため、現実より波及効果の額が小さくなる。

(注3) 表24で個別企業(主催者)の売上にかかわるため最終需要の一部をXで秘匿したが、ここでも秘匿欄Xを設けている。

表 24 付表 1 産業別にみた経済波及効果（静岡市・静岡県とも上位 50 位）

(単位:100万円)			(単位:100万円)		
順位	静岡市	波及効果	順位	静岡県(静岡市を含む)	波及効果
	合計			合計	
		205.7			317.4
1	商業	24.1	1	その他の対事業所サービス	44.1
2	その他の対事業所サービス	23.7	2	商業	35.5
3	飲食サービス	18.9	3	飲食サービス	22.1
4	その他の対個人サービス	15.5	4	鉄道輸送	19.2
5	他に分類されない会員制団体	9.2	5	その他の対個人サービス	16.3
6	鉄道輸送	8.2	6	洗濯・理容・美容・浴場業	15.2
7	宿泊業	8.0	7	金融・保険	11.0
8	金融・保険	7.3	8	他に分類されない会員制団体	9.7
9	洗濯・理容・美容・浴場業	7.2	9	広告	9.7
10	食料品	5.9	10	宿泊業	9.2
11	広告	5.1	11	食料品	8.9
12	通信	3.9	12	道路輸送(除自家輸送)	6.4
13	衣服・その他の繊維既製品	3.8	13	衣服・その他の繊維既製品	5.5
14	道路輸送(除自家輸送)	3.8	14	通信	5.2
15	電力	3.3	15	電力	4.9
16	自家輸送	3.2	16	自家輸送	4.6
17	不動産仲介及び賃貸	2.7	17	運輸附帯サービス	4.2
18	運輸附帯サービス	2.4	18	不動産仲介及び賃貸	4.0
19	物品賃貸サービス	2.3	19	放送	4.0
20	住宅賃貸料	2.1	20	航空輸送	3.5
21	自動車整備・機械修理	2.1	21	住宅賃貸料	3.3
22	放送	2.1	22	自動車整備・機械修理	3.1
23	医療	1.9	23	医療	3.0
24	教育	1.8	24	教育	2.9
25	娯楽サービス	1.8	25	娯楽サービス	2.8
26	その他の製造工業製品	1.6	26	物品賃貸サービス	2.8
27	なめし革・革製品・毛皮	1.6	27	化学最終製品(除医薬品)	2.5
28	化学最終製品(除医薬品)	1.5	28	石油製品	2.4
29	廃棄物処理	1.4	29	廃棄物処理	2.3
30	ガス・熱供給	1.3	30	なめし革・革製品・毛皮	2.2
31	石油製品	1.3	31	飲料	2.1
32	水道	1.2	32	その他の製造工業製品	2.0
33	飲料	1.2	33	水道	1.9
34	社会保険・社会福祉	1.0	34	ガス・熱供給	1.7
35	情報サービス	0.8	35	社会保険・社会福祉	1.6
36	建設補修	0.8	36	耕種農業	1.3
37	乗用車	0.8	37	建設補修	1.3
38	耕種農業	0.7	38	乗用車	1.2
39	印刷・製版・製本	0.6	39	情報サービス	1.1
40	たばこ	0.5	40	紙加工品	0.9
41	通信・映像・音響機器	0.5	41	プラスチック製品	0.9
42	民生用電気機器	0.4	42	印刷・製版・製本	0.9
43	公務	0.4	43	たばこ	0.8
44	航空輸送	0.4	44	通信・映像・音響機器	0.8
45	映像・音声・文字情報制作	0.4	45	民生用電気機器	0.7
46	事務用品	0.4	46	公務	0.7
47	インターネット附随サービス	0.3	47	自動車部品・同附属品	0.6
48	プラスチック製品	0.3	48	繊維工業製品	0.6
49	繊維工業製品	0.3	49	事務用品	0.6
50	紙加工品	0.2	50	医薬品	0.5

(注1) 合計は上位50位の合計ではなく107業種全体の合計である。

(注2) 「商業」の経済効果(生産誘発額)は売上から仕入れを差し引いたいわゆる「粗利」の誘発額である。

静岡市と静岡県（静岡市を含む）への経済波及効果（生産・売上の誘発効果）がどのような産業にもたらされるのかを金額の大きい順に上位 50 位についてみたのが表 24 付表 1 である（合計は 107 全産業の合計である）。

静岡市の第 1 位は来場者が会場内外で支出する「買い物」にかかわる「商業」であり、金額は 2,410 万円である。静岡県は会場設営ほかの運営に直接間接にかかわる「その他对事業所サービス」4,410 万円である。「商業」の経済波及効果の金額は、売り上げから仕入れを差し引いた商業マージン、いわゆる「粗利（あたり）」をさしているため、数字の理解に留意が必要である。

「商業」は静岡市では第 1 位、静岡県では第 2 位であり、「その他の対事業所サービス」については、静岡市が第 2 位、静岡県では第 1 位となっている。

静岡市、静岡県とも第 3 位が「飲食サービス」であり、それぞれ 1,890 万円、2,210 万円となっている。

以下、TGC の開催に直接かかわっている次のような業種が上位に来ている。

新幹線や JR など「鉄道輸送」（静岡市 820 万円：6 位、静岡県 1,920 万円：4 位）、「宿泊業」（静岡市 800 万円：7 位、静岡県 920 万円：10 位）、アンケート調査の設問にあったネイルやヘアカットなどの「洗濯・理容・美容・浴場業」（静岡市 720 万円：9 位、静岡県 1,520 万円：6 位）、お菓子などお土産の多くを占める「食料品」（静岡市 590 万円：10 位、静岡県 890 万円：11 位）、イベントの宣伝にかかわる「広告」（静岡市 510 万円：11 位、静岡県 970 万円：9 位）などである。

雇用効果について、発生する雇用機会がどの産業に及んでいるかを静岡市、静岡県についてみたのが、下記の表 24 付表 2 である。合計は 107 全産業の合計である。

「他に分類されない会員制団体」（静岡市 1.1 人：6 位、静岡県 1.2 人：6 位）は観光協会、商工会議所などの民間非営利団体であり、直接間接にイベントの宣伝などにかかわっていることを示している。「耕種農業」（静岡市 0.5 人：10 位、静岡県 0.9 人：8 位）は米や野菜・果物を育てる業種で、お土産や飲食サービスへの来場者の支出から原材料へと波及効果が及んでいることを示している。

表 24 付表 2 雇用効果（静岡市・静岡市を含む静岡県）

順位	静岡市		雇用効果	順位	静岡県(静岡市を含む)		雇用効果
	合計				合計		
			23.4				34.7
1	その他の対事業所サービス		5.2	1	その他の対事業所サービス		9.7
2	その他の対個人サービス		3.2	2	商業		4.7
3	商業		3.2	3	飲食サービス		3.6
4	飲食サービス		3.1	4	その他の対個人サービス		3.4
5	洗濯・理容・美容・浴場業		1.2	5	洗濯・理容・美容・浴場業		2.5
6	他に分類されない会員制団体		1.1	6	他に分類されない会員制団体		1.2
7	衣服・その他の繊維既製品		0.8	7	衣服・その他の繊維既製品		1.2
8	宿泊業		0.7	8	耕種農業		0.9
9	道路輸送(除自家輸送)		0.5	9	道路輸送(除自家輸送)		0.9
10	耕種農業		0.5	10	宿泊業		0.9

### ③ 行政への税収効果

表 25-1 静岡市の税収効果 (単位: 100 万円)

静岡市の税収効果		課税標準対応項目 (産業連関表項目)	H27年産業連 関表より	H28年度一般会 計税収額等	税率係数	生産誘発 額など	税収効果
記号・算式			A	B	$t=B \div A$	$\Delta X$	$\Delta T = \Delta X \cdot t$
市税	1.1 市町村民税(個人)	雇用者所得合計	1,540,614	41,908	0.0272	58	1.6
	1.2 市町村民税(法人)	営業余剰合計	627,013	10,810	0.0172	24	0.4
	2 固定資産税(注1)	設備投資額	-	-	0.0140	23	0.2
	3 軽自動車税	市内生産額合計	5,845,672	1,400	0.0002	206	0.0
	4 市町村たばこ税	民間消費支出計	1,655,446	4,571	0.0028	63	0.2
	5 入湯税	民間消費支出計	1,655,446	28	0.0000	63	0.0
	6 事業所税	市内生産額合計	5,845,672	4,065	0.0007	206	0.1
7 都市計画税	市内生産額合計	5,845,672	10,570	0.0018	206	0.4	
市税合計				73,352			2.9
地方 交付 金等	1 地方譲与税(注2)	市内生産額合計	5,845,672	2,289	0.0004	206	0.1
	2 地方交付税(注3)	域内総生産額(GRP)	3,071,546	11,405	0.0037	116	0.4
	3 地方消費税交付金	民間消費支出	1,655,446	13,212	0.0080	63	0.5
	4 その他(注4)	域内総生産額(GRP)	3,071,546	129,259	0.0421	116	4.9
地方交付金等合計				156,166			5.9
市町村税及び経済活動関連交付金増収額(合計)				229,518			8.8

- (注1) 固定資産税の税収効果とは異なり、民間設備投資誘発額×評価額調整係数0.7×税率1.4%の算式で求めている。  
(注2) 国税として徴収しそのまま地方公共団体に対して譲与する税。地方公共団体の財源とされているものについて、課税の便宜その他の事情から、徴収事務を国が代行している。現在、地方揮発油譲与税、地方道路譲与税、石油ガス譲与税、特別とん譲与税、自動車重量税の収入額の3分の1(当分の間、1,000分の407)の額を市町村に対して譲与する自動車重量譲与税、地方法人特別譲与税がある。(総務省「決算カード」) 地方への配分比率は地方道路延長(km)などで時々々の経済活動には関係しない例が多いが、国税の課税対象自体が経済活動を反映しているため地方譲与税も経済活動に影響を受けるとしてここに挙げている  
(注3) 地方交付金の配分基準も、配分の原因となる国税(所得税・法人税など)が経済活動の影響を受けるため、ここに計上した。  
(注4) 利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、ゴルフ場利用税交付金、特別地方消費税交付金、自動車取得税交付金など

表 25-2 静岡県の税収効果 (単位: 100 万円)

静岡県の税収効果		課税標準対応項目 (産業連関表項目)	H27年産業連 関表より	H28年度一般会 計税収額等	税率係数	生産誘発 額など	税収効果
記号・算式			A	B	$t=B \div A$	$\Delta X$	$\Delta T = \Delta X \cdot t$
県税	1.1 県民税(個人)	雇用者所得合計	8,101,258	152,639	0.0188	88	1.7
	1.2 県民税(法人)	営業余剰合計	2,976,867	16,638	0.0056	38	0.2
	1.3 利子割・配当割など	雇用者所得・営業余剰	11,078,125	169,277	0.0153	126	1.9
	2 事業税	県内生産額合計	33,324,396	126,397	0.0038	317	1.2
	3 地方消費税	民間消費支出	8,688,991	86,294	0.0099	97	1.0
	4 不動産取得税	域内総生産額(GRP)	16,223,229	11,796	0.0007	116	0.1
	5 県たばこ税	民間消費支出	8,688,991	7,171	0.0008	97	0.1
	6 ゴルフ場利用税	民間消費支出	8,688,991	2,597	0.0003	97	0.0
	7 自動車取得税	県内生産額合計	33,324,396	4,760	0.0001	317	0.0
8 軽油引取税ほか	県内生産額合計	33,324,396	36,814	0.0011	317	0.4	
9 その他税	域内総生産額(GRP)	16,223,229	16,520	0.0010	180	0.2	
県税小計				630,902			6.6
地方交 付金等	1 地方譲与税(注1)	県内生産額合計	33,324,396	13,240	0.0004	317	0.1
	2 地方交付税(注2)	域内総生産額(GRP)	8,688,991	103,644	0.0119	180	2.2
	3 各種交付金ほか(注3)	域内総生産額(GRP)	8,688,991	88,953	0.0102	180	1.8
地方交付金等計				205,837			4.1
県税及び経済活動関連交付金増収額(合計)				836,739			10.7

- (注1) 国税として徴収しそのまま地方公共団体に対して譲与する税。地方公共団体の財源とされているものについて、課税の便宜その他の事情から、徴収事務を国が代行している。現在、地方揮発油譲与税、地方道路譲与税、石油ガス譲与税、特別とん譲与税、自動車重量税の収入額の3分の1(当分の間、1,000分の407)の額を市町村に対して譲与する自動車重量譲与税、地方法人特別譲与税がある。(総務省「決算カード」) 地方への配分比率は地方道路延長(km)などで時々々の経済活動には関係しない例が多いが、国税の課税対象自体が経済活動を反映しているため地方譲与税も経済活動に影響を受けるとしてここに挙げている  
(注2) 地方交付金の配分基準も、配分の原因となる国税(所得税・法人税など)が経済活動の影響を受けるため、ここに計上した。  
(注3) 利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、ゴルフ場利用税交付金、特別地方消費税交付金、自動車取得税交付金など

生産の増加により企業や家計の所得や消費が増えることで、市や県の税収や経済活動に関連する譲与税や交付金の一部が増える。合計では、静岡市では 880 万円、静岡県では 1,070 万円の増収となる（表 25-1、表 25-2）。

#### ④ 地域社会への定住人口効果

生産が増え、雇用機会も創出されれば、家族を含めた定住人口の増加につながる。令和 2 年（2020 年）に実施された総務省統計局「国勢調査」から、静岡市と静岡県の就業者数（昼間）と人口のデータが得られるため、定住人口比率を求め、それを雇用効果に乗ずることで定住人口の誘発効果（人）を算出したのが表 26 である。

静岡市で 45 人、静岡県で 69 人の定住人口を創出するインパクトがあったが、1 日だけのイベントなので、雇用効果と同様に恒常的な効果ではない。

地域の定住人口は、恒常的な就労機会がどの程度あるのかに左右されるが、1 日だけや 1 週間など恒常的でないイベントなども、多様な内容を持つその積み重ねによっても影響を受けないと断言することはできないため、雇用効果や定住人口効果に何らかの影響を与えていることは無視できない。

表 26 静岡市と静岡県の定住人口誘発効果

	定住人口 効果算出	人口	うち 就業者数	昼間就業 者数	定住人口 比率	雇用効果 (昼間)	定住人口 誘発効果
記号・算式	地域	A	B	C	$D=A \div C$	E	$F=E \times D$
令和2年 国勢調査	静岡県	3,633,202	1,817,048	1,816,432	2.000	35	69
	静岡市	693,389	345,110	358,315	1.935	23	45

(了)